

# コレクション史料の記述・編成における視角 — 国文学研究資料館所蔵の小杉楹邨関係史料を事例として —

川 嶋 孝 幸

## 【要 旨】

コレクション史料の整理にあたっては、出所および配列の二重構造に配慮する必要がある、受け入れ時に周到な調書を作成しておくことが望まれる。しかし、現実にはその譲渡・移管はコレクターの没後に実現することが多く、十分な情報を得ることが難しい。

国文学研究資料館所蔵の小杉楹邨関係史料（「小杉楹邨収集文書」・「徴古雑抄」）もそのひとつであり、各史料群の概要記述や目録編成に再点検が必要な状況にある。

本稿ではこのような現状に鑑み、コレクション史料取扱い上の原則に基づく整理（記述・編成）実現のため、残された資源からの情報抽出を試みた。そこで重視したのは、各史料の外形的特徴と書き入れ・識語などの内容記述である。

検討の結果、以下2点を確認することができた。1点目は、外形的特徴に注目した体系的調査は二次出所を復元する上で一定の有効性があり、目録編成を行うための手掛かりを提供すること。そこで得られた情報は、小杉楹邨関係史料のように複数のアーカイブズ（館）で分散管理されているコレクション史料の全体像を把握する上でも有用である。2点目は、主に内容記述に注目した所蔵史料群相互の関係性追究が、コレクションに新たな価値を付加すること。概要記述の充実はもちろん、当該コレクション全体の性格を見直す上で有効な視角を与えることに繋がる。

あわせて、国文学研究資料館所蔵「徴古雑抄別本」の史料的価値についても触れた。

## 【目 次】

はじめに

### 1. 小杉楹邨関係史料の現状

- (1) 楹邨の略歴
- (2) 楹邨没後の蔵書散逸と分散管理の現状
- (3) 国文学研究資料館所蔵の小杉楹邨関係史料

### 2. コレクション史料の整理原則を意識した記述・編成

- (1) 「小杉楹邨収集文書」の外形的特徴に注目した体系的調査
- (2) 所蔵史料間の内容記述に注目した関係性考究  
— 「徴古雑抄」と「徴古雑抄別本」の関係性に注目して—
- (3) 「徴古雑抄別本」の史料的価値

おわりに

## はじめに

コレクション史料には、各史料が本来所属していた原出所とコレクション史料という二次の出所とがあり、整理にあたってはこの2つを併存させ、それぞれの配列形態にも配慮する必要がある。この出所および配列の二重構造と呼ぶべき複合性を、そのまま活かすところに史料取扱上の要点がある。

このようなコレクション史料の特性を鑑み、アーカイブズ(館)がそれを取扱う際には、受け入れ時にコレクションの目的・収集年代・収集方法・整理方式・原出所など、周到な調書を作成しておく必要があるのだが、現実としてコレクション史料の譲渡・移管はコレクター自身によって実行される例は少なく、没後に実現するため、前記の調査事項に対する完全な回答情報を得ることは難しい<sup>1)</sup>。

本稿ではこのような現状を鑑み、国文学研究資料館所蔵の小杉榎村関係史料を題材に取り上げ、上記の原則に基づく整理(記述・編成)実現のため、残された資源からの情報抽出を試みた。

## 1. 小杉榎村関係史料の現状

### (1) 榎村の略歴

まず、小杉榎村の経歴について簡単に触れておく。

小杉榎村は、天保5年(1834)蜂須賀家の陪臣の子として阿波国徳島に生れ、幼名を五郎、のち発、眞瓶、伽耶と改め、号を杉園・春蘭といった。榎村は幼い頃より読書、書道を好み、そのかわら園芸に特別な趣味を持ち、杉の産地を識別するのが巧みであって、杉園の号はこれに由来するという。弘化2年(1845)12歳の時、藩校寺島学問所に入って漢学経史を学び、また父より詠歌、物語の類を習った。嘉永元年(1848)、元服して西尾氏(蜂須賀家家臣)に仕え、後江戸に出て、安政4年(1857)江戸赤坂紀伊藩邸内の古学館に入門して国学を学び、村田春野・小中村清矩・久米幹文・黒川春村・秋元安民らと親交した。その後、文久年間に至って尊王攘夷運動に加わり、文久3年(1863)郷里で一時幽閉され、ついで謹慎の身となったが、この頃から阿波国史の研究に着手、阿波国古文書・古記録の収集と考証を始めた。これが端緒となり、生来の筆まめに収集癖も加わって、後年「徴古雑抄」<sup>2)</sup>とよばれる一大古文書・古記録集を編むに至る。

明治維新後、徳島藩士となり、長久館助教として国典学を講じ、また阿波国の地誌編纂を兼務した。屋代弘賢の不忍文庫旧蔵書を主流とする徳島藩主蜂須賀家の文庫、阿波国文庫の蔵書は維新後、旧藩士に1人10部を限って下賜されたというが、このような縁もあってか榎村へのそれはかなり多かったようである<sup>3)</sup>。その後、明治7年(1874)に教部省へ出仕し、以後『古事類苑』神祇部の編纂に従事、兼ねて東京大学古典講習科講師、ついで帝室博物館鑑査課主任、

1) 以上、コレクション史料の性格やその整理原則については原島陽一「コレクション史料の目録編成」(国文学研究資料館〈史料館〉編『史料の整理と管理』所収、岩波書店、1988年)を参照。

2) 現在、国文学研究資料館が所蔵。本来書名であるため『徴古雑抄』と表記すべきであろうが、本稿においては行論の都合上「徴古雑抄」とする(同続編・続編附録・別本なども以下同じ)。

3) 川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の世界』(ペリかん社、1999年) p.96を参照。

東京美術学校教授、東京帝国大学文科大学講師などを歴任して、明治34年、文学博士の学位を授与された。

学界活動では、明治19年大八州学会を本居豊穎・久米幹文らと設立、また明治28年には、三宅米吉・下村三四吉・福地復一らと日本考古学会を創立、『考古学雑誌』の前身『考古学会雑誌』を発刊した。ついで、日本歴史地理学会の出発にあたっては推されて顧問となっている。

また、楳邨は、かな書道や詠歌に長け、歌学および有職故実に通じ、明治31年御歌所参候となり、古筆研究を進め、美術鑑定をよくした。発表された論文・随筆の類は多数にのぼる。そして、明治43年3月29日没、享年76歳であった。

その業績は、最後の国学者の一人のそれとってよく、国史・地誌・国文・書道・歌学・有職故実・考古・美術の諸方面におよび、その古文書・古記録の収集と実物主義とが楳邨の学問の特徴をなしているといえる<sup>4)</sup>。

表1 明治維新後の略歴

年次	月日	経歴
明治2	11.17	長久館古典学教授兼地誌編纂掛(徳島藩庁)
同3	5.14	阿波国統風土記編纂掛兼務(徳島藩庁、その後廃藩置県と共に編纂中止)
	7.30	教部省十一等出仕(社寺掛専務)
同7	10.4	教部省権中録(考証課専務)
	5.24	第四大学適巡回視察
同8	1.11	教部省廃止につき解官
	3.24	内務省御用掛(社寺局専務)
同10	12.25	七等掌記(修史館第二局甲科専務)
同11	11.1	十三等出仕(参謀本部総務局詰)
同13	4.9	文部省五等属(古事類苑編纂専務)
同14	8.30	東京大学御用掛兼務(文学部付属古典講習科国書準講師)
同15	6.6	文部四等属
同17	1.9	文部省非職
	3.8	東京大学文学部付属古典講習科国書準講師解
	4	大八州学会を設立し、国文の研究及び普及に貢献
同19	6.7	帝国博物館歴史部美術部備
同22	3.1	帝国博物館技手
	3.11	臨時全国宝物取調局書記兼鑑査掛
		難波津会を設立し、古筆を研究
同23		考古学会を設立
同28		古社寺保存委員
同30	11	帝国博物館臨時鑑査掛
同31	2.12	御歌所参候
	2	古社寺保存国宝計画調査嘱託
同32	2.27	御物鑑査御用仰せ付らる
	5.11	帝国博物館鑑査課古文書科主任兼務
	5.22	パリ万国大博覧会出品鑑査委員
	6.23	東京美術学校教授兼任、高等官七等叙
	9.11	東京帝国大学文科大学講師嘱託、国語学国文学国史第三講座に属する職務分担を拝命
同33	9.6	明治三十四年東京帝室博物館春季特別展覧会委員
	9.25	東京帝室博物館技手免
同34	4.26	文学博士の学位を授けられる
	9.13	高等官六等叙
	9.17	東京帝国大学講師国語学国文学国史第三講座に属する職務分担解
	9	国語伝習所講師
同37	7	東京帝国大学文科大学講師解
同39	1	私立大成中学校長
同40	6	読書会を設立し、書道界の発展に寄与
同41	9	国学院講師
同43	1	国語伝習所長
	3.29	没

註) 日本歴史地理学会委員「博士の略年譜」(『歴史地理』15-5、1910年)、甲斐知恵子他「小杉楳邨」(『近代文学研究叢書』11、1959年)により作成。

4) 以上、小杉楳邨の経歴については、主に日本歴史地理学会「小杉博士記念録」(『歴史地理』15-5、1910年)、甲斐知恵子他「小杉楳邨」(『近代文学研究叢書』11、1959年)、原秀三郎「小杉文庫の伝来」(小杉文庫調査団編『藤江家旧蔵 小杉文庫目録』所収、静岡県教育委員会、1981年)を参照した。

## (2) 榎邨没後の蔵書散逸と分散管理の現状

小杉榎邨のコレクションは、前述した経歴ならびに学問の性格を反映し、膨大なものであったようだが、榎邨の死後まもなく古本屋に買い取られ、分散してしまったという<sup>5)</sup>。値付けに出向いた南陽堂書店の深沢良太郎氏によれば、その量は目録の厚さが2、3寸で「一晩かかっても調べがつかぬ」程のものであり、「押入れにもあれば棚にもあり、非常に狭い家ですが、あちこちと十ヶ所位」に散在していたという<sup>6)</sup>。また、入札にかけられた分量は結局「馬力の四輪車に二台位」で、会場の「二階は一杯、下も一杯」といったあり様であったが、一晩にして売り手がついたという<sup>7)</sup>。また、この時売却されたものの他にも、榎邨への金銭的援助の代償として、その没後に他家へ引き渡されたものもあったとされる<sup>8)</sup>。

このような経緯もあり、現在、小杉榎邨のコレクションは以下の通り(表2)分散管理されている。

表2 小杉榎邨関係史料の分散管理状況(代表的所蔵機関※国文学研究資料館は除く)

所蔵機関	数量	内容
国立国会図書館古典籍資料室	108件(233冊・10舗) ※ほか、小杉本の写本 8件(4冊・6舗)	古文書の影写本、古典籍・古文書(校訂註入)、神葬祭関係、美術調査、ウィーン万国博覧会関係文書類など
東京大学史料編纂所	56件	古経典類など「原本」23件、「模写」4件、「台紙付写真」14件、「写本」15件
静岡県立美術館	347件	藤江家に伝わった古典籍・書画・拓本類など
北海学園大学北駕文庫	130件(371冊)	古典籍類、神祇関係文献など

註)・上表は、松野陽一「小杉榎邨」(井上宗雄他編『日本古典籍書誌学事典』所収、岩波書店、1999年)、大沼宣親「小杉榎邨の蔵書形成と学問」(『近代史料研究』1、2001年) pp.2-3・同pp.13-15(註10～24)を参照し作成した。

・大沼氏は上表の所蔵機関以外にも東京都立中央図書館(加賀翠溪旧蔵書)、東京国立博物館、宮内庁書陵部、東洋文庫、東北大学附属図書館、早稲田大学附属図書館、無窮会神習文庫、天理大学附属天理図書館などを挙げる。

なお、各所蔵機関の書名リストをもとにコレクションの内容を検討した大沼氏は、それを①古文書・古記録(地方誌を含む)、②古典文学書・史書、③史実の考証・歴史研究、④日本美術(工芸・書画)史関係の調査記録・研究、⑤神祇関係、⑥有職故実関係、⑦和歌関係、⑧そのほか(古美術的価値を有するものを含む)に大別できると指摘する<sup>9)</sup>。

## (3) 国文学研究資料館所蔵の小杉榎邨関係史料

現在、国文学研究資料館は小杉榎邨関係史料について「小杉榎邨収集文書」と「徴古雑抄」という2つの文書群を所蔵している。ここでは、その記述・編成の現状を確認していきたい。

まず、その概要記述だが同館の電子資料館にて公開されている史料情報共有化データベースでは以下のような解説(表3)がなされている。

特に、「範囲と内容」の記載事項に注目すると、それぞれの史料群に属する個別史料名の紹介などにとどまる内容となっており、先に触れたコレクション史料の持つ出所および配列の二重構

5) 前掲註4) 原論文参照。

6) 反町茂雄編『紙魚の昔がたり 明治・大正篇』(八木書店、1990年) pp.226-227を参照。

7) 前掲註6) 書p.288を参照。なお、この時の売上は7500円であったとする(買値は2500円)。

8) 前掲註4) 原論文参照。

9) 大沼宣親「小杉榎邨の蔵書形成と学問」(『近代史料研究』1、2001年) p.3を参照。



表3 史料情報共有化データベースにおける「小杉榎邨収集文書」・「徴古雑抄」の概要記述

	小杉榎邨収集文書	徴古雑抄
資料記号	38D	27A-2
年代	752年～1847年	0000年～0000年
年代注記	752（天平勝宝4）年-1847（弘化4）年	古代・中世・近世初頭
記述レベル	fonds	fonds
書架延長／数量	3m / 141点※1	4m / 190点※2
物的状態注記	141点※1。一部彩色、塗箱・木箱あり。	190点※2
出所・作成	小杉榎邨	小杉榎邨
伝来	1963年度に古書店より購入。	1952年度に古書店より購入。
入手源	古書店	古書店
範囲と内容	小杉榎邨の収集による影写史料や拓本。「徴古雑抄」別本・附属11冊、東大寺正倉院文書の自筆影写本16冊をはじめとして、山城国大原来迎院如来藏文書、讃岐国櫛梨神社古文書、同国田村神社壁書、同国白峯寺所蔵善根目録、石清水八幡宮文書、752（天平勝宝4）年の造寺司牒三綱所文、伊予国石手寺板書写、薩摩国文書、その他全国各地の古寺社・旧家文書の影写本・拓本がある。	小杉榎邨の自筆稿本を含む。「徴古雑抄」138冊、「徴古雑抄続編」46冊、「徴古雑抄続編附録」5冊からなる。阿波国を中心に、全国にわたる古文書・古記録を集録したもので、考古学や古代・中世史料を多く筆写・集積しており、そのなかには既に散逸して原本を確認できない史料も多くある。
検索手段	史料仮目録A	『史料館所蔵史料目録』第4集（1955年）
関連資料	当館所蔵「徴古雑抄」（27A-2）	当館所蔵「小杉榎邨収集文書」（38D）のほか、「徴古雑抄図畫一上」（天理大学附属図書館蔵）がある。
出版物	参考として、日本歴史地理学会『阿波国徴古雑抄』、西野元「『徴古雑抄』に描かれた房総の埴輪」（『日本と世界の考古学－現代考古学の展開－』雄山閣出版、1993年3月）。	『阿波国徴古雑抄』（日本歴史地理学会、1913年）。参考として、西野元「『徴古雑抄』に描かれた房総の埴輪」（『日本と世界の考古学－現代考古学の展開－』雄山閣出版、1993年3月）、「小杉博士記念録」（『歴史地理』15－5）。

註) 上記の内容は、福田千鶴氏による『史料館所蔵史料総覧』（名著出版、1996年）の両史料群掲載記事をもとに作成されていると思われる。なお、既に触れた榎邨の経歴などに関する記述は省略したが、表記は原文ママ。

※1 現在確認できるのは106件、133点となっている。

※2 未製本分31種（27A-2-56-1）含む。

造を鑑みた表現がなされているとは言い難い。ちなみに、『阿波国徴古雑抄』の巻末に掲出されている「阿波国徴古雑抄附録（徴古雑抄総目次）」に、「徴古雑抄」は計142冊であるとされており、その内容は正篇（古文書・古記録・家乗抜抄・日記抜抄・法律・伝記・戦記之類・雑々文章・伝疑・武家・征韓・古暦・本系帳・系図・過去帳・分限帳・歌・地理）58冊・諸国72冊・図画12冊であるという。ただし、今回同総目次を再点検したところ、諸国は73冊で計143冊になるものと思われる。これに対し表3にある国文学研究資料館所蔵の「徴古雑抄」は、正篇57冊・諸国69冊・図画11冊の137冊に総目次には見えない「芸術品」なる題目の1冊を含めたもので構成されており、本来あるべき「巻十五上 系図本系帳過去帳一」・「伊予三」・「図画一上」の3冊に欠落がある。その上、「徴古雑抄」諸国に含まれるべき「淡路」・「備中以下」（備中）・「讃岐二」（讃岐）が「徴古雑抄続編」に、「肥後・硫黄島」が「徴古雑抄続編附録」に配され、一方で総目次に「尾張・美濃」の取載史料とされる「養老美泉辯」が「美濃」（養老美泉辯）として独立の冊をなすなど混乱が見られる。同様の問題は「徴古雑抄続編」の構成にも認められる<sup>10)</sup>。

10) 「阿波国徴古雑抄附録（阿波国徴古雑抄続編目録）」（小杉榎邨編『阿波国徴古雑抄』〈日本歴史地理学会、1913年〉所収）によると、「徴古雑抄続編」は「阿波一上」から「阿波十五下」まで全編阿波国関係の史料46冊で構成される。しかし、国文学研究資料館所蔵の「徴古雑抄続編」は、「阿波一上」から「阿波十四下」までの41冊（「阿波三上」・「阿波四上」は欠落）に「淡路」・「備中」・「讃岐」・「武蔵」・「諸国文書」の5冊が付随する形で構成され、前者で「徴古雑抄続編」に分類されていた「阿波十五上」・「阿波十五中」・「阿波十五下」は、後者では全て「徴古雑抄続編附録」（阿波国徴古雑抄附録）に同編目は見えない）に配されている。なお、国文学研究資料館所蔵の「徴古雑抄」・「徴古雑抄続編」・「徴古雑抄続編附録」の内訳は史料館編『史料館所蔵史料目録 第四集』（史料館、1955年）と調査知見（付表3）による。

つぎに、目録のあり方だが「小杉榎邨収集文書」については史料番号・表題・年代・形状・数量の記載された仮目録があり、「徴古雑抄」についても『史料館所蔵史料目録 第四集』（p.52）に附録として「徴古雑抄」・「徴古雑抄続編」・「徴古雑抄続編附録」それぞれに類される各史料の史料番号・題目・冊数が記されている。しかし、どちらも簡略な記述にとどまっており、やはり文書群の構造を知り得るような情報提供ができていないと言え難い。

これらは、受け入れ時の情報不足に起因する問題であると思われる。そこで、以下では、このような問題を解消し、コレクション史料の整理原則とその要点を踏まえた記述・編成に近づけていくため、小杉榎邨関係史料の外形的特徴や内容記述に注目し検討していく。

## 2. コレクション史料の整理原則を意識した記述・編成

### （1）「小杉榎邨収集文書」の外形的特徴に注目した体系的調査

まず、これまで体系的調査・分析が十分ではなかった「小杉榎邨収集文書」から検討をはじめめる。ここから着手したのは、当該史料群が外形的特徴に富み、その分析が小杉榎邨関係史料の全容把握（目録編成など）にとって有益であろうと判断したためである。

同史料群の形態別概要は以下の通り（表4）、冊子・卷子が大半を占める<sup>11)</sup>。

表4 「小杉榎邨収集文書」の形態別概要

形態	件数	点数	該当史料
冊子	32	32	「徴古雑抄 別本」・「東大寺正倉院文書 影写」など
卷子	52	65	「讃岐国田村神社壁書 影写」・「讃岐国白峯寺所蔵善根目録」など
綴	2	3	「屋代翁書式」(2綴)・「厨子図写(小笠原貞慶流)」
枚・鋪	4	5	「御即位図」・「大嘗会悠紀殿・基殿図」など
状	11	23	「阿波木屋平文書(正平以降)」(10通)・「讃岐国榎梨神社古文書 影写」(4通)など
袋	5	5	「私小忌雛形」・「式部寮雛形」など
計	106	133	

また、図1のような和紙小片（直書きもあり）が貼付されている史料が52件（60点）存在する。基本型は「カタカナ1字+漢数字」（朱字）で、ものにより右上に「共」・「共二」（ともに朱小字）などといった表記がなされている。ちなみに、この和紙小片は他館所蔵史料にも認められ、榎邨直筆の元ラベルではないかとされている<sup>12)</sup>。

さて、和紙小片が貼付されている史料の内訳は表5の通りであるが、これもやはり、冊子（27件・27点）と卷子（23件・27点）がその大半を占める。傾向としては「サ三」系が古文書・古記録の編纂物（冊子）、「サ五」系（あるいはヌ系）が卷子でその内容は多種多様である。和紙小片は比較的形態（形状）を鑑みて貼付されている傾向にある。

なお、「石清水太政官符」（38D-57-1～3）は3巻のうち、1には和紙

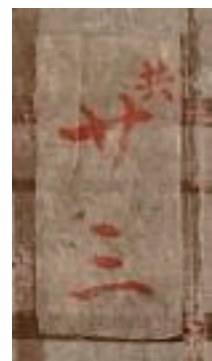


図1 和紙小片  
※出典：38D-1

11) 当該史料群の概要を付表1にまとめた。適宜参照されたい。

12) 前掲註9)大沼論文p.4の註(31)を参照。ただし、貼付された時期や分類によるものか排架によるものかなど、その意味するところは未詳としている。

表5 和紙小片貼付史料の概況

和紙小片表記	件数	点数	形態	該当史料
サ三	4	4	冊子2・卷子2	「阿波国麻殖郡三木山三木氏文書 抜抄影」・「延喜帝宸翰摸本 影写（後醍醐天皇〔正応二年之写〕）」・「古葬儀 建保以降」など
サ〈三〉	2	2	冊子・卷子	「山城国大原来迎院如来蔵文書他」・「榊原家蔵佐里卿書蹟文集 拓本」
共/サ三	11	11	冊子	「徴古雜抄 別本」一～七・附録一～四
共二/サ三〔朱字を黒字へ〕	2	3	卷子1・綴2	「寸珍名蹟帖 影写」・「屋代翁書式」（2綴）
共十五九/サ三/外二一〔小字〕	1	1	冊子	「東大寺正倉院文書 影写」（戸籍計帳）
共十五/サ三/外二一〔小字〕	11	11	冊子	「東大寺正倉院文書 影写」各種（16冊中の11冊）
共十六/サ三/追加〔小字〕	1	1	冊子	「東大寺正倉院文書 影写」（雑四 経師施物 請事 他）
共三/サ〈五〉	1※	1	卷子	「石清水太政官符」の2
共四/サ〈五〉	1	4	状	「讃岐国榑梨神社古文書 影写」（4通）
サ五	1	1	卷子	「一休和尚誌 影写」
サ〈五〉	16	16	卷子	「讃岐国田村神社壁書 影写」・「讃岐国白峯寺所蔵善根目録」・「空海師尺牘 風信帖他 影写本」・「新古今和歌集竟宴懐紙 影写本」など
共/ヌ〈三〉	1※	1	卷子	「石清水太政官符」の3
共/ヌ〈五〉	1	4	卷子	「殿舎図」（4巻）
計	52	60		

註）※ 史料番号57「石清水太政官符」（3巻）の2・3はあわせて1件換算。

小片が添付されておらず、2に「共三/サ〈五〉」<sup>13)</sup>が、3に「共/ヌ〈三〉」の和紙小片が貼付されている。それぞれの表紙にあたる部分に記された題目（史料直書き）には、1に「石清水/太政官符」、2に「石清水/太政官符〈宮寺所、庄園三拾四ヶ所事〉」、3に「官符/石清水社□田中権僧正差出候書付」とあって若干の相違が認められ、法量（縦・長とも）についても1・2に比して3は大型である。「ヌ」の和紙小片を有する「殿舎図」（38D-75）が、他の卷子に比してやはり大型であることを鑑みると、それは単に内容面を考慮して貼付されたものではなく、形態・法量を考慮したもの（あるいは排架か）のように思われる<sup>14)</sup>。ただし、同史料群中に見える「徴古雜抄別本」（38D-1～11）や「東大寺正倉院文書 影写」（38D-14～28・106）など冊子体のものが、各冊毎ないし複数冊間でテーマを持ち、ある一定の形態・法量で編まれたものであることを鑑みれば、それは結果として内容分類に直結することとなる<sup>15)</sup>。いずれにせよ、和紙小片の貼付状況は、コレクターの意図やコレクション史料の構造分析（二次出所の復元）に寄与するものとなる意味において、見逃すことのできない情報といえよう。

13) 本稿の表や引用文中などに用いた各種記号は、/が改行、〈〉・《》が細行・割書、（）・〔〕・※が筆者註であることを示すものである。

14) これらのことから、現在はその内容面から38D-57として括られている「石清水太政官符」3巻だが、もとは1・2と3として別個に管理されていた可能性を指摘できよう。

15) 「徴古雜抄」の表紙にも2種類の和紙小片が個別に貼付されており、その別は内容分類に関係すると思われる（後述）。

その他、蔵書印・識語印については図2に示した5種が認められ、蔵書印(「杉園蔵」・「一片月」)・識語印(「榎村」〔角印〕・「榎邨」〔白抜丸印〕・「榎邨」〔角印])の押印された史料が34件存在し、その内訳は表6に示した通りである。罫紙の使用は、「徴古雑抄別本」一(38D-1)・二(38D-2)の屋代弘賢による跋文・識語以外では見られない。



図2 蔵書印・識語印

※出典：①38D-1、②38D-6、③38D-2、  
④38D-76、⑤38D-77

これまで見てきた外形的特徴のみでは、「小杉榎邨収集文書」の編成を行うことは難しい。ただし、和紙小片の貼付状況など今回確認した諸点は、小杉榎邨関係史料を分散管理している他機関のそれを再点検した時、あらためて意味を持つものになるだろう。

表6 蔵書印・識語印の押印状況

印面	のべ件数	のべ点数	該当史料(形態種別・史料詳細)
杉園蔵	32	40	13冊、20巻、4通、2綴、1舗
一片月	9	9	9冊(「徴古雑抄別本」11冊中の9冊)
榎村〔角印〕	4	7	3冊(「徴古雑抄別本」二・「阿波国麻殖郡三木山三木氏文書 抜抄影」・「東大寺正倉院文書 影写 係姓氏」)、4巻(「殿舎図」)
榎邨〔白抜丸印〕	1	1	1巻(「建保六年八月十三日中殿御会図式」)
榎邨〔角印〕	1	1	1巻(「薩摩国文書 影写」)

註)・印面の〔 〕内表記は筆者註。

- ・「一片月」・「榎邨」〔白抜丸印〕は「杉園蔵」とセットで用いられ、単独使用はない。
- ・「榎村」〔角印〕も1点を除き、「杉園蔵」押印本中に用いられる。
- ・「榎邨」〔角印〕は単独使用。

## (2) 所蔵史料間の内容記述に注目した関係性考究

### －「徴古雑抄」と「徴古雑抄別本」の関係性に注目して－

ここでは、「小杉榎邨収集文書」とその関連史料とされる「徴古雑抄」(「徴古雑抄続編」・「徴古雑抄続編附録」を含む)の関係性について、外形的特徴と内容記述(書き入れ・識語など)から検討を加える。特に注目したいのは、その名に「徴古雑抄」を冠した「徴古雑抄別本」(「小杉榎邨収集文書」のうち)と「徴古雑抄」との関係性である。ちなみに、表3に示した概要記述には、相互に「関連資料」として掲げられているが、その具体像については明らかにされていない<sup>16)</sup>。

行論の都合上、まず「徴古雑抄」について確認していく。形態は冊子体(袋綴)で「徴古雑抄」正篇が縦25.8cm×横18.5cmないし縦26.5cm×横19.2cm、同諸国・図画が縦26.5cm×横19.2cm、「徴古雑抄続編」が縦24.0×横16.5cm前後、「徴古雑抄続編附録」が縦24.5cm×横17cmとおおよそ統

16) 「徴古雑抄別本」・「徴古雑抄」に関わる調査知見は付表2・付表3にまとめた。付表1同様、メモ書きの域を出るものではないが、適宜参照されたい。



一規格をとり、表紙左に「徴古雑抄」（ないし「徴古雑抄続編」、「徴古雑抄続編附録」）とあり、その直下に「阿波一」など巻別題目が直書き（割書）される<sup>17)</sup>。その多くは見返しか1丁表に標目（あるいは目次）を配し、各冊におけるはじめの収載史料冒頭（右下）に「杉園蔵」（図2の①）の蔵書印を有する。その他「楡村」（図2の③）・「楡邨」（図2の⑤）とする識語印や「阿波國文庫」など旧所蔵先の蔵書印も散見する。

前節でも触れた和紙小片は「徴古雑抄」各冊の表紙にも貼付されている。「共/サ四」・「共/カ三」の2種が貼付され、特に「共/カ三」は「徴古雑抄」・「徴古雑抄続編」・「徴古雑抄続編附録」の全体を通して、阿波国関係の冊子に付与されている。この事実は、和紙小片が内容分類に基づいて貼付されていることを示唆するものである。

料紙については無地の和紙が最も多いものの、その他罫紙なども多種認められる。特に目立つものとして帝室博物館・13行、帝国博物館・13行、内務省・13行、教部省・10行（13行）、臨時全国宝物取調局・13行、修史館・10行、宮内省・13行、文部省・13行、宮内省・13行、名東県・8行、澄水会・12行などが挙げられる。また、その他無地の罫紙や匡郭のみが印字された用紙（「古事類苑稿」と印字されたものが多い）も使用されている。これらは書き入れや識語同様、収載史料の収集年代判定の一助となる。

書き入れ・識語によって明記された収集年代を見ると、それは安政3年（1856）<sup>18)</sup>から明治38年（1905）<sup>19)</sup>前後の時期と見られ、特に明治7年7月の教部省出仕から同14年4月の文部省出仕（古事類苑編纂専務）後少しの期間と、同22年6月から同33年9月までの東京帝国博物館（特に臨時全国宝物取調局書記兼鑑査掛として）在籍期間に、その職務を通じて触れる機会を得た史資料を多く書写・入手したものと見られる。実際、「本社祭神考証ノ事ニ就テコノ原本ヲ教部省ニ徴サル其ヲリコマカニ目撃スルニ延喜ノ真物トハ見エス紙筆トモニアタラシキモノ也サレトサスカニ二百年以内ノ物ニハアラサルヘシ按ルニ本書ノ写シナランカ後來ノ支証ニ供ヘンカ為ニ別ニ影写シテ取メオク 明治八年十二月十日〔楡邨花押〕」<sup>20)</sup>、「此書明治廿三年三月臨時全国宝物取調局ニ役事シテ本寺ノ古器古文書点検ノヲリ再ビ之ヲ発見ス取調局ニ於テ参考ニ充ンガ為ニ少シク書ヌクベキ所モアレバ寺僧ニコヒテ借出シ書ヌキ了テ後私ニモ暫シ留メ此冊ニモノセザリシ寺々ヲコトビ別本ニ補写シ第二下〈乙〉巻ニ取メ置クサレバ其別本ト云モノト併セテ全豹ヲ見ベキモノトス」<sup>21)</sup>といった識語が見られる。なお、代表的な入手先（個人）として、在郷中には野口年長・屋代弘賢（阿波国文庫）を、上京後は小中村清矩・栗田寛といった教部省時代の関係者、その他前田利嗣などといった面々を挙げることができる。

17) 正篇は付表3の27A-2-41-1～27A-2-54-3、諸国は27A-2-1-1～27A-2-39-2、図画は27A-2-40-1～27A-2-40-11の各史料を指す。なお、表紙には題目とは別に「巖島文書一」といった収載史料に関わる記載も見られる。また、題目には一部（「徴古雑抄続編」）に題箋貼付型のものも見られる。巻別題目は基本割書だが、阿波国関係の冊子に見える漢数字は題目同等の表記法をとる。

18) 「君公年中御式略」（27A-2-57-9所載）識語より。

19) 「飛騨三郡沿革」（27A-2-28-1所載）識語より。

20) 「大鳥神社流記帳」（27A-2-41-9所載）識語。

21) 「諸寺縁起集抜抄」（27A-2-41-5所載）識語。この識語よれば、当初「徴古雑抄」正篇（古文書）には「二下甲」・「二下乙」の2冊が存在したように思われる。ただし、「阿波国徴古雑抄附録（徴古雑抄総目次）」には「巻二下」としか見えず、現在国文学研究資料館でも「二下 古文書」（27A-2-41-7）を所蔵するのみである。このことから、『阿波国徴古雑抄』刊行時点ですでに若干の欠落が生じていた可能性を否定できない。

つぎに、「徴古雑抄別本」について確認する。「徴古雑抄」と同じく冊子体(袋綴)で、別本一〜七が縦32.5×横22.8cm、別本附録一〜四が縦31.5cm×横24.0cmの統一規格をとり、表紙左に「徴古雑抄別本」とあり、その直下に漢数字(附録は「附録+〔漢数字〕」)が直書き(割書)される。また、見返しなし1丁表に標目を配し、各冊におけるはじめの収載史料冒頭(右下)に「杉園蔵」・「一片月」(図2①・②、②は一部欠)とする蔵書印を有する。その他、「和学講談所」など、旧所蔵先の蔵書印も散見する。

11冊すべての表紙に「共/サ三」の和紙小片が貼付されているが、料紙は基本的に無地の和紙であり<sup>22)</sup>、そのため各収載史料中に見える書き入れ・識語によってのみ、その入手経路や書写年代が判断される。また、冊子の形態に合わせてサイズ調整し謄写・収載された史料は「徴古雑抄」に比して少なく、史料を影写(謄写)した料紙をそのまま冊子(台紙)へ貼付ないし綴じ込んだものが多い。その意味で底本の原形をとどめた史料も多いと思われる。

各冊の内容(挟み込み史料含む)は、別本一が「尊婆須蜜菩薩所集跋文」他計24件、別本二が「遠江国榛原郡相良平田邨平田寺所蔵聖武天皇御願文一卷」他計9件、別本三が「文館詞林の印影」他計20件、別本四が「太政官符紀伊国司案文」他計10件、別本五が「尾張国笠覆寺文書」他計3件、別本六が「諏訪神社文書」他計8件、別本七が「播磨国広峯神社文書」他計7件、別本附録一が「正倉院保存文書」他計16件、別本附録二が「菅公真蹟・零残三種」他計6件、別本附録三が「空海真蹟金剛般若経開題草稿零残」他計7件、別本附録四が「東大寺献物帳零断」他12件となる。

書き入れ・識語によって判断される確実な入手先の代表的なものは、聴涛閣<sup>23)</sup>、前田家<sup>24)</sup>、壬生官務家<sup>25)</sup>、和学講談所<sup>26)</sup>、東大寺<sup>27)</sup>、田中光顕<sup>28)</sup>など収集家や史料編纂機関・寺社・旧家などであるが、恐らくは栗田寛との関係性により入手したと思われるもの<sup>29)</sup>など「徴古雑抄」のそれと重なるものが散見する。収集年代は明治9年<sup>30)</sup>から同37年<sup>31)</sup>に及ぶ。

特に収集年代やその入手先に「徴古雑抄」と「徴古雑抄別本」の密接な関係性を窺い知るところであるが、収載史料中の識語のいくつかにそれを裏付ける記述がある。例えば「徴古雑抄」三上甲古文書(27A-241-8)所載「亀山院御凶事記抜萃」に見る「全篇ハ徴古雑抄別本三ノ巻ニ収ム就テ見合スヘシ」<sup>32)</sup>とする記述や、「徴古雑抄別本」二(38D-2)所載「尾張国真福寺所蔵尾張国解文古鈔本 首尾四張」に見る「右四張尾張国解文真福寺ニ所伝ノ古鈔本ノ影写ナリ今タダ書体訓法ヲ知シカ為ニ其首尾ノ一ニヲ抄出スルノミ全文謄本ノ如キハ別ニ徴古雑抄

22) 一部、屋代弘賢の識語・跋文などは罫紙を使用している。

23) 「衆分事阿毗曇跋文」(38D-1所載)など10点。

24) 「類聚国史古写本」・「享禄古写本三代格」(双方とも38D-1所載)の2点。

25) 「自政抄注出」・「朔旦冬至奉賀表」(双方とも38D-1所載)の2点。

26) 「同〔聖武天皇護願文〕文符谷掖齋所刻 一卷」・「春枝考」(双方とも38D-2所載)の2点。

27) 「東大寺弘安辛櫃刻字」(38D-3所載)など、東大寺蔵と明記のある史料のみで5点(東大寺関連史料は、この他に5点あり)。

28) 「□□なつ乃歌」・「滄海遺珠」(38D-11所載)の2点。

29) 「亀山院御凶事記」(38D-3所載、付:亀山院御凶事記考〈栗田寛〉・亀山院崩御記〈佐々宗淳謄写〉)・「古写本釈日本紀題跋」(38D-4所載、蔵書印:「彰考館」)などから窺える。

30) 書写年代についてはこれ以前の記載も見られるが、小杉樞邨直筆の識語で確実な入手時期を断定できる史料が「山城国如意寺流記帳」(38D-1所載)であり、それが明治9年にあたる。

31) 「金剛般若経開題草稿 空海真蹟」(38D-8所載)識語より。

32) 実際、「徴古雑抄別本」三(38D-3)に「亀山院御凶事記」としてその全文が掲載されている。

〈尾張国〉ニ取ム<sup>33)</sup>とする記述があり、特に前者によって「徴古雑抄」・「徴古雑抄別本」相互を補完的に活用することが推奨されていることを知る<sup>34)</sup>。また、「徴古雑抄」十四下（古暦下）(27A-2-50-2)には大永2・4～6年の暦が記載されており、その識語に「右大永暦残餘数紙ハ前田利嗣君蔵弁シ給フ所ノ享禄伝写本類聚三代格裏背ニ存スル者也今茲三代格影写スルツイテヲ以テ卒忽ニ之ヲ抄写シ畢」とする記載がある。ここに見える「享禄伝写本類聚三代格」は、「徴古雑抄別本」一（38D-1）に「享禄古写本三代格」として記載されている。

これらの情報を総合し、「徴古雑抄」と「徴古雑抄別本」の関係性について整理すると、以下のことがいえよう。「徴古雑抄」・「徴古雑抄別本」は、その記載史料の収集年代や入手ルートを一にする史料群であるが、後者は前者の編纂時に記載されなかった関連史料をその史料的価値を考慮し撰修されたものであり、付随史料として位置づけられる。また、今回の検討結果から「小杉榎邨収集文書」全体についても内容記述に注目した再検討が必要と思われる。

### （3）「徴古雑抄別本」の史料的価値

最後に、「徴古雑抄別本」所載史料の価値について一部触れておく。概要は前記の通りだが、評価すべきは榎邨の担った職務やそこで得た人脈により多く善本から影写ないし謄写されている点である。特に五（38D-5）から七（38D-7）の所載史料には活字化されていないと思われるものも散見する。また、一部には善本自体から抜き取られ「徴古雑抄別本」に貼付されている史料も存在する。「大御記背面文書写」（以下、「写」と記す）<sup>35)</sup>がそれである。

周知の通り、『大御記』（『大記』・『大府記』・『為房卿記』）は、一時蔵人・弁官・檢非違使を兼帯し、かつ摂関家の家司も務めた能吏・藤原為房（永承4年〈1049〉～永久3年〈1115〉）の日記である。抜群の実務官僚として勸修寺家の基礎を固め、故実にも関心の深かった為房の日記は、院政初期の政治・社会を窺う上で絶好の史料であり、後世参照されることも多かった<sup>36)</sup>。そのためか写本も多く、現在でも院政期を研究する上で重要な史料である。

「写」は、前述の「徴古雑抄別本」三に収められた14紙分の史料である。実寸で縦28.5cm×横20.5cm、袋綴（台紙貼付）の形態をとる。また、それぞれ裏面中央の袋綴折目部分には、「大記寛治元年秋裏写〔漢数字〕」といった表記が見られる。

現在知られている『大御記』各写本中において、「写」と同じく寛治元年（1087）の裏書を有し、特にそれと強い関係性が窺われるものが2点存在する<sup>37)</sup>。ひとつが国立公文書館(内閣文庫)所蔵の4冊本（請求番号160-0180）中の3で「大御記〈寛治元年/夏/秋〉裏写」（以下「裏写」

33) 全文は「徴古雑抄」古文書（尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武蔵）(27A-2-25-1)に記載。

34) 筆跡を見るに、これら識語は「徴古雑抄」・「徴古雑抄別本」編纂後のある時期に、小杉榎邨本人によりまとめて記されたものと思われる。

35) 38D-3所載。なお、当該史料の翻刻と内容の詳解については別稿にて扱う予定である。

36) 土田直鎮「為房卿記」（『国史大辞典』第9巻、吉川弘文館、1988年）p.308、木本好信「藤原為房—その生涯と日記『大府記』—」（『平安朝官人と記録の研究』所収、おうふう、2000年）参照。木本氏によれば、『中右記』・『山槐記』・『長秋記』・『兵範記』・『玉葉』・『平戸記』・『吉記』などに『大御記』参照の事例が散見するという。

37) 国書研究室編『国書総目録』〈補訂版〉第5巻（岩波書店、1990年〈第1刷、1967年〉）、田島公「為房卿記」（橋本義彦他『日本歴史「古記録」総覧』〈上巻〉所収、新人物往来社、1989年）、国文学研究資料館・新日本古典籍総合データベース「為房卿記」〈書誌詳細・国書所在〉<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>（2022年8月10日最終確認）などを参照。

と記す)と題されたものであり、もうひとつが同じく国立公文書館(内閣文庫)所蔵の17冊本(請求番号160-0184)中の8で「秘 寛治元年 大御記〈七月八月/九月〉裏書」(以下「裏書」と記す)と題されたものである。

「裏写」は袋綴で、法量は縦28.5cm×横20.5cm、紙数は31であり、裏面中央の袋綴折目部分に「写」同様、「大記寛治元年秋裏写〔漢数字〕」の表記を持つ。「裏書」も袋綴で、法量は縦27.1cm×横19.8cm、紙数は44(巻頭・巻末の白紙含む)であるが、裏面に特別な表記は見当たらない。双方とも「大御記〈寛治元七八九〉裏令書/写了/万治三 五 廿五 宣順」<sup>38)</sup>という同一の奥書を持ち、内容もほぼ一致するだけに同系統の写本と思われるが、「裏写」は「裏書」の第3紙表～第13紙裏までと第15紙表(半分)～第17紙表までの記述を欠いている。そこで、「裏写」の裏面表記に注目すると「五」～「十六」までと、「十八」・「十九」の14紙分に欠落が見られた。実は、その裏面表記を持つものこそが「写」なのである。「写」と「裏写」の法量や料紙の特徴(ともに薄様)を鑑みても、両者がもとは1冊の写本であった蓋然性が高い。

「裏書」の中の年紀が判別される文書5点(全て「写」に含まれる)については、すでに田島公氏によって紹介され、それぞれ検討がなされている<sup>39)</sup>。しかし、同写本はその内容こそ注目されるものの、意味不明なまま書写されたであろうと思われるような箇所が散見するなど粗漏も多い<sup>40)</sup>。「氏爵」の実態や「問注申詞記」の古例を確認することができるなど貴重な内容を含むだけに、より正確な写本の存在が期待されるところであった。「写」+「裏写」と「裏書」の表記を比較検討するに、前者は薄様に透写・影写されたもので、料紙の折目(袋綴)を無視して底本の破損箇所をも忠実に再現するなどされている点に特徴が見られる。一方後者は、楮紙と思われる料紙に謄写されたもので、行数・字数には拘らず追い込み式で記述された(折目も意識)ものとなっている。事実、「裏書」に見られる粗漏(誤写など)については、「写」を照合することによって多くの問題点が解決される。

なお、「裏写」には「和学講談所」・「書籍館印」・「浅草文庫」・「日本政府図書」の蔵書印が見え、その所蔵機関の変遷を明確に辿ることができる。「裏写」を含む国立公文書館(内閣文庫)所蔵の

38) 「宣順」は、勸修寺流藤原氏の前権大納言中御門宣順(慶長18年〈1613〉10月27日～寛文4年〈1664〉5月3日)かと思われる。

39) 田島公他A「美濃国池田郡の条里：「池田郡司五百木部惟茂解」の紹介と検討を中心に」(『史林』70-3、1987年)、田島公B「『氏爵』の成立—儀式・奉仕・叙位—」(『史林』71-1、1988年)、田島公C「『永保二年土師興任問注申詞記』について—『為房卿記』紙背文書の紹介—」(『日本歴史』480、1988年)を参照。A論文では「年月日未詳〔長元八年十一月二十三日カ〕美濃国池田郡司五百木部惟茂解案」とその関連文書「長元八年十二月二十五日付美濃国使〔四度使・郡務使等〕解案」を、B論文では、「応徳三年十二月十三日付交野禁野司百濟王氏人申文」を、そしてC論文では「永保二年土師興任問注申詞記」ならびに「応徳三年円教寺三綱等解」といった年紀を有する文書を取り上げている(各文書名は田島公A・B・C・D論文による)。なお、これら文書は竹内理三編『平安遺文』(東京堂出版刊行)には未収であるが、現在東京大学史料編纂所の「平安遺文フルテキストデータベース」(<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w09/search>)にて確認が可能となっている。

40) 後に田島氏も、「この本は取り合わせ本であり、『裏書』を持つことは貴重であるが、写本としてはあまりよい写本ではない」(田島公D「美濃国池田郡の条里」追考—「安八磨(安八)」郡名の由来と「紀(池田)氏系図」所引美濃国池田郡関係史料の検討—〈足利健亮先生追悼論文集編纂委員会編『地図と歴史空間—足利健亮先生追悼論文集—』所収、大明堂、2000年) p.6)と評している。



『大御記』4冊本<sup>41)</sup>は、和学講談所の書庫棚別目録と見られる<sup>42)</sup>『書籍目録』三（静嘉堂文庫蔵9冊本）<sup>43)</sup>に「大御記 二巻古写」・「同裡書 二巻古写」、浅草文庫の蔵書目録である『博物館書目』<sup>44)</sup>に「大記 四冊」、同じく浅草文庫の蔵書目録である『博物館書目解題略』記録類六（内閣文庫22巻18冊本の第6冊）<sup>45)</sup>に「大御記二巻裏書二巻寫本 四冊」と見える。『書籍目録』三（全508種掲載）には「古写」と特記される写本が他に5種認められ、それぞれ国立公文書館蔵本中に確認されるが<sup>46)</sup>、そのうち奥書にて書写年代の比定が可能なもの2種を挙げると「小朝拝賀部類 一卷古写」（『小朝拝部類記』1冊）が永正13年（1516）、「三長記 三巻古写」（『三長記』3冊）が慶安3年（1650）となり、4冊本（「裏写」）が万治3年（1660）に書写された原本であると理解することに矛盾しない。ちなみに、「裏書」にも「日本政府図書」の蔵書印が確認できるものの、それが内閣文庫所蔵となった経緯などについて確認できる史資料は見当たらない。

以上を見る限り、「写」+「裏写」と「裏書」は、その奥書や内容から同系統の写本と思われるが、特に前者は底本の形態を残したより良質な写本であるといえよう。榎邨が「写」を入手した経緯は不明だが、その職務上所蔵先から借用した史料を「私ニモ暫シ留メ」補写していた<sup>47)</sup>実態を鑑みれば、それが手元に残っていたとしても不思議はない。事実、榎邨を通じた正倉院御物・法隆寺献納御物の流出事件が発生している。事件自体は、大正6年（1917）の新聞報道により発覚したものだが、榎邨の死後、遺族によって売却されたというという旧藏品の中には籍帳をはじめとする正倉院文書の断簡も含まれていたと見られている<sup>48)</sup>。

- 
- 41) 4冊本は、1. 「大御記(寛治元年《□〔夏ヵ〕》)」、2. 「大御記(※朱字/寛治元年秋)」、3. 「大御記(寛治元年/夏/秋)裏写」、4. 「大御記(寛治元/夏)裏写」と題された4冊から成る。
- 42) 朝倉治彦監『和学講談所蔵書目録』第3巻〈書誌書目シリーズ51〉(ゆまに書房、2000年)、「解題」参照。
- 43) 朝倉治彦監『和学講談所蔵書目録』第2巻〈書誌書目シリーズ51〉(ゆまに書房、2000年)参照。
- 44) 『博物館書目』上(内務省博物館、1878年)を参照。なお、同書は「浅草文庫和漢書目録」であり、同文庫所蔵の洋書類はこれに含まれない(樋口秀雄「浅草文庫の創立と景況」〈『参考書誌研究』4、1972年)を参照)。
- 45) 村山徳淳編『幕府・関係機関旧蔵帝室博物館所蔵書籍解題』第3巻〈書誌書目シリーズ52〉(ゆまに書房、2000年)参照。『博物館書目解題略』は、浅草文庫が明治13年(1880)までに所蔵していた古典籍について詳細な解説を加えたものでもある。同書は「大御記二巻裏書二巻寫本 四冊」について、「大府寺関白忠通ノ記録ナリ寛治元年四月ヨリ九月ニ至ル裏書二巻奥書ニ曰ク大御記ノ裏書ヲ写サシム万治三年五月良順トアリ」と解説する。「忠通」は「為房」、「良順」は「宣順」の誤りであろう。
- 46) 5種の詳細は以下の通り(冒頭の「」内表記は『書籍目録』三中に見える書名、「-」を含む番号は請求番号)。それぞれ「和学講談所」の蔵書印を有する。1. 「糸束記 四巻古写」:『左経記』(外題:「糸束記」)4冊・160-0199、2. 「宰記 三巻古写」:『永昌記』(外題:「嘉承元年記」)〈内題:「嘉承元年七月 宰記」)1冊・160-0215と『永昌記』(外題:「宰記」)2冊・160-0217、3. 「日件録 一卷古寫」:『臥雲日件録抜尤』(外題:「臥雲日件録」)1冊・特061-0024、4. 「小朝拝賀部類 一卷古写」:『小朝拝部類記』(外題:「小朝拝部類記」)1冊・145-0147、5. 「三長記 三巻古写」:『三長記』(外題:「三長記」)3冊・特037-0018。
- 47) 「諸寺縁起集抜抄」(27A-2-41-5所載)識語。
- 48) 東野治之「小杉榎邨旧蔵の正倉院及び法隆寺献納御物—その売却事件と鷗外の博物館総長就任—」(『大和古寺の研究』所収、塙書房、2011年〈初出は1989年)参照。

## おわりに

本稿では、コレクション史料取扱い上の原則に則った整理実現のため、既存の資源からの情報抽出を試みた。結果、確認されたのは以下2点である。

1点目は、外形的特徴に注目した調査には二次出所の復元といった意味において一定の有効性があること。今回は和紙小片の貼付状況の把握が要諦であった。それが今後目録編成を行う上での手掛かりになることはもちろん、複数のアーカイブズ（館）などで分散管理されているコレクション史料の全体像を把握する上で有効に作用するであろう。

2点目は、所蔵史料群相互の関係性を書き入れ・識語などの内容記述に注目して追究することで、コレクションに新たな価値を付加することができること。それが、概要記述の充実に繋がり、さらに「小杉榎邨収集文書」全体の性格を見直す上でも重要な視角となるであろう。

あわせて、「徴古雑抄別本」の史料的価値についても触れた。本稿が当該史料はもちろん、「小杉榎邨収集文書」や「既に散逸して原本を確認できない史料」<sup>49)</sup>を多く含む「徴古雑抄」の利活用に資するところがあれば幸いである。

---

49) 福田千鶴「徴古雑抄」（国文学研究資料館編『史料館所蔵史料総覧』所収、名著出版、1996年）p.269

付表1 38D「小杉榎邨収集文書」仮目録

凡例・〈 〉内は細行・割書、/は改行、□は判読不能文字、〔 〕・（ ）※は本表作成者註。

また、史料名や註記（引用）については、適宜新字体に改めた。

・「状態など」欄の数字は丁数（収載史料個別の丁数を示す場合は数字の前に「 」で史料名を表記）、オは表面を、ウは裏面であることを示す。

・本目録は、当該史料群の仮目録を加筆修正して作成したものである。

史料番号	表題	和暦	形態・法量	状態など (和紙小片表記、蔵書印、識語など)	数量
1	徴古雑抄 別本一 尊婆須密菩薩所集跋文 他 影写		美大	共〔小字、以下同〕/サ三、2オ・ウに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：標目・3オ右下2箇所）	1冊
2	徴古雑抄 別本二 遠江国榛原郡相良平田郡平田寺所蔵聖武天皇護願文 一卷他		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下、榎村〔角印〕：「筑後国高良玉垂神社所蔵齊衡文書天慶文書 一卷」識語、和学講談所：「春枝考」）	1冊
3	徴古雑抄 別本三 文館詞林の印影他		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下、杉園蔵他3カ所）	1冊
4	徴古雑抄 別本四 太政官符紀伊国司案文		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：1オ右下、彰考館：「古写本釈日本紀題跋」）	1冊
5	徴古雑抄 別本五 尾張国笠寺文書他		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下）	1冊
6	徴古雑抄 別本六 諏訪神社文書他		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下）	1冊
7	徴古雑抄 別本七 播磨国広峯神社文書他		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下、根岸武香珍蔵：「近江国田寿 三種」、青袋文庫：「昌泰二年太政官牒文」）	1冊
8	徴古雑抄 別本附録一 正倉院保存文書他		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下）	1冊
9	徴古雑抄 別本附録二 普公遺跡、零残三種		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下）	1冊
10	徴古雑抄 別本附録三 空海眞跡金剛般若 経開題草稿零残		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下）	1冊
11	徴古雑抄 別本附録四 東大寺献物帳零断		美大	共/サ三、見返しに標目あり、蔵書印・識語印（杉園蔵：一片月：1オ右下）	1冊
12	阿波国麻殖郡三木山三木氏文書 抜抄影		美大	サ三、蔵書印・識語印（杉園蔵・榎村〔角印〕とも見返し右上）、「正平七年七月 阿波守為仲〈奉〉 文書ヲ写サズ〈文ハ徴古雑抄一ニ収ム〉」とあり	1冊
13	山城国大原来迎院如来蔵文書他		美大	サ〈三〉、「コレヲノ古図メツラシク思ユレバ永井如雲ニ写サシメテ秘架ニ置ク明治三十六年四月」とあり（「續集古図抜萃」）、「臨写の要文ハ徴古雑抄阿波國に収載す」とあり（「寧楽寶庫□詰カ」）保存東大寺領（阿波/國）文書）	1冊
14	東大寺正倉院文書 影写 移文、解文		美大		1冊
15	東大寺正倉院文書 影写 写経所、造東大寺司雑用		美大	共十五/サ三/外ニ一〔小字、以下同〕	1冊
16	東大寺正倉院文書 影写 係姓氏		美大	共十五/サ三/外ニ一、蔵書印・識語印（榎村〔角印〕）	1冊
17	東大寺正倉院文書 影写 紙筆、線色、襖		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
18	東大寺正倉院文書 影写 写書所、造東大寺司錢用〔帳〕		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
19	東大寺正倉院文書 影写 雜一 詔勅、宣		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
20	東大寺正倉院文書 影写 雜二 天平年間、請造物		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
21	東大寺正倉院文書 影写 雜三 天平勝宝 七写経所		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
22	東大寺正倉院文書 影写 雜四 経師施物 請事 他		美大	共十六/サ三/追加〔小字〕	1冊
23	東大寺正倉院文書 影写 写経所、畫所雑用、作物解文、雑用米銭		美大		1冊
24	東大寺正倉院文書 影写 阿波国戸籍莊園		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
25	東大寺正倉院文書 影写 戸籍計帳		美大	共十五九/サ三/外ニ一	1冊
26	東大寺正倉院文書 影写 戸籍		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
27	東大寺正倉院文書 影写 請暇、請雜物		美大	共十五/サ三/外ニ一	1冊
28	東大寺正倉院文書 影写 写経所、絵仏師、作物所、装□〔遺工カ〕		美大附二紙	共十五/サ三/外ニ一	1冊
29	讃岐国榎梨神社古文書 影写			4通とも共四/サ〈五〉、蔵書印・識語印（杉園蔵：見返し右下）	4通
30	讃岐国田村神社壁書 影写			サ〈五〉	1巻
31	讃岐国白峯寺所蔵善根目録			サ〈五〉	1巻
32	摂津国水無瀬宮後鳥羽院宸翰			サ〈五〉、蔵書印・識語印（杉園蔵：見返し右下）	1巻
33	高尾神護寺 太政官牒写 影写				1巻
34	石清水八幡 太政官符写 影写	嘉禎4年他			1巻
35	几帳女眼〔服カ〕			サ〈五〉〔朱字・手書〕	1巻
36	造寺司牒三綱所文他	天平宝暦4年他			1巻
37	讃岐国琴弾八幡宮縁起写	応永年間		サ〈五〉	1巻
38	執政所因			※閲覧不能	1巻
39	石清水八幡宮御装束圖 因共			※閲覧不能	2巻
40	絵巻書ぬき			サ〈五〉、明治33年7月写	1巻
41	白峰寺相伝眞宝目録 生駒家取調				1巻
42	讃岐国白峰寺旧記写			サ〈五〉	1巻
43	日御崎神社古文書写			※閲覧不能	2巻
44	御即位因				1枚
45	勝持寺 伝言野蹟				1通
46	唐招提寺 伝言孝謙帝宸翰				1通

史料番号	表題	和暦	形態・法量	状態など (和紙小片表記、蔵書印、識語など)	数量
47	東大寺国分門額字写 伝言聖武天皇宸筆				1通
48	等覺門				1通
49	法勝寺 伝言佐蹟				1通
50	聖一國師度牒戒牒 影写			サ (五)、杉園蔵 (自筆)	1巻
51	大嘗祭、廻立殿内・大嘗宮内置絵	元文元度			2枚
52	私小忌雛形				1袋
53	如形小忌雛形				1袋
54	出納小忌雛形				1袋
55	諸司小忌雛形				1袋
56	式部寮雛形				1袋
57	石清水太政官符			1.特記事項なし、2.共三/サ (五)、3.共/ヌ (三)	3巻
58	金字円光明最勝王経帙 写真図 久成法師			サ (五)	1巻
59	古筆蹟 影写			サ (五)	1巻
60	延喜帝宸翰模本 影写(後醍醐天皇〔正応二年之写〕)	(正応2年写)		サ三	1巻
61	寸珍名蹟帖 影写(孝謙天皇宸翰封戸勅書 等正倉院御物)			共ニ/サ三〔朱字を黒字へ〕、明治24年8月写	1巻
62	平等院鳳凰堂九品文墨痕 拓本			サ (五)	1巻
63	空海師尺牘 風信帖他 影写本			サ (五)、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右上、青木印〔青木信寅の蔵書印・識語印〕:裏面〔印の上に「京七百八十四号」と記載あり〕、尾□□館□□:史料右下)	1巻
64	新古今和歌集竟宴懐紙 影写本			サ (五)、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
65	黒氏梵志経 拓本				1巻
66	山城国乙訓郡長法寺所蔵金棺釋迦佛說法因他六種写真図			サ (五)、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
67	禰原家蔵佐里卿書蹟文集 拓本			サ (三)、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
68	家隆卿詠二種懐紙 拓本			サ (五)、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
69	素性集 写本				1巻
70	権中納言敦集 他歌含 写本				1巻
71	東京神祇官全図				1巻
72	東京神祇魂図			蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
73	東京神祇祈季祭図			蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
74	正倉院残零古物図			サ (五)	1巻
75	殿舎図			1～4まで共/ヌ (五)、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)、「以帝國博物館文庫本模写/明治廿四年四月 小杉樞郎〔樞村角印〕」	4巻
76	建保六年八月十三日中殿御会図式			蔵書印・識語印 (杉園蔵・樞郎〔白抜丸印〕:史料右下)	1巻
77	薩摩国文書 影写	弘安2年、弘安3年		蔵書印・識語印 (樞郎〔角印〕:識語下)	1巻
78	伊豫国石手寺壁板書写 文明年間	文明年間		蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
79	伊豫国石手寺壁板書写 永禄年間	永禄1年間		蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
80	大井庄預所系図				1枚
81	厨子図写(小笠原貞慶流)				1綴
82	阿波木屋平文書(正平以降)	(正平以降)			10通
83	語符□〔方に生、「旌」カ〕旗図			1・2・3とも蔵書印・識語印 (阿波國文庫:史料右下)	3巻
84	舞御覽旧記			蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
85	詠唱歌 青海波 荒序譜			蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
86	俗人補任			1・2とも蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	2巻
87	奉盧舎佛種葉文 影写 勝宝八年	天平勝宝8			1巻
88	昭乘翁書 双鈞影写			※閲覧不能	1通
89	後柏原院御著到和歌懐紙写				1通
90	角倉素菴消息 影写 拓本				1通
91	百鍊鏡 拓本				1通
92	雨中吟(西之条実隆自筆)写				1巻
93	一休和尚誌 影写			サ五、蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1巻
94	道の記		半		1冊
95	屋代翁書式			1・2とも共ニ/サ三、1・2とも蔵書印・識語印 (杉園蔵:1オ右下)	2綴
96	大般若心経(古写経) 寿永元年	寿永元年			2巻
97	大般若心経(古写経) 養和四年	養和4年			1巻
98	大般若心経(古写経) 文治六年他	文治6年他			2巻
99	能登宿祿位記 弘化三年	弘化3年			1巻
100	藤原重義位記 弘化四年	弘化4年			1巻
101	行成卿筆定文 京極宮御蔵			サ三	1巻
102	智仁親王御うたひかへ				2巻
103	大嘗会悠紀殿・基殿図			蔵書印・識語印 (杉園蔵:史料右下)	1鋪
104	古葬儀 建保以降	(建保以降)	美大	サ三、蔵書印・識語印 (杉園蔵:1オ右下、阿波國文庫・不忍文庫・杉園蔵:2オ右下)、明治11年11月11日付の小杉の識あり	1冊
105	手本				1冊
106	東大寺正倉院文書 影写 戸籍、錢用帳、月借銭				1冊



付表2 「徴古雑抄別本」各冊概要

凡例・各記載事項中の〈 〉内は細行・割書、/は改行、□は判読不能文字、〔 〕・（ ）※は本表作成者註。また、適宜新字体に改めた（収載史料名）。  
 ・所蔵先は、各史料中において小杉が明記（多くは朱字）しているもののみを記載した。  
 ・収載史料名は各冊子の標目を参照し記載した（掲出順も同じ）。挟み込み史料等は適宜史料名を付与し、後列に配した。

一（和紙小片表記：共/サ三〔朱字〕）※史料番号：38D-1				
収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考（蔵書・識語印など）	
1 尊婆須密菩薩所取跋文			小杉藏書印：杉園藏	
2 金光明最勝王経巻首				
3 百済豊虫写経跋文 備後国三調郡八幡宮 所蔵経跋文				
4 衆分事阿毗曇跋文	聴涛閣			
5 仁寿四年田券	聴涛閣			
6 貞観二年田券	聴涛閣			
7 文館詞林跋文	聴涛閣			
8 乾元二年送米文	聴涛閣			
9 文治五年具注曆	聴涛閣			
10 兵書断簡	聴涛閣			
11 河内国大稅免死亡人 歴	聴涛閣			
12 集巻	聴涛閣カ 赤星弥之助	明治28年4月 縦覧		
13 永久二年田券残片	聴涛閣カ			
14 山城国如意寺流記帳	贈江藤正澄	明治9年		
15 延暦寺勒封唐横文書			付「屋代弘賢墨本跋文」（茶色罫紙）	
16 類聚国史古写本	前田利嗣旧蔵	明治15年8月		
17 享禄古写本三代格	前田家			
18 文館詞林一斑	古川躬行	明治10年5月8日	蔵書印（写）：立教館 図書印・桑名文庫	
19 自政抄注出	壬生官務家			
20 平等院鳳凰堂扉書				
21 高良十講会縁起				
22 八棒神社長寛文書	阿波国那賀郡宮倉村八棒神社			
23 朔旦冬至奉賀表	壬生官務家			
※ 仏説文臨竭王経一卷 （黄色麻紙）	元興寺旧蔵 帝国博物館所有		1の前に挟み込み	
二（和紙小片表記：共/サ三〔朱字〕）※史料番号：38D-2				
収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考（蔵書・識語印など）	
1 遠江国榛原郡相良平田 平田寺所蔵聖武天皇護 願文 一卷	不忍文庫旧蔵？（阿波 国文庫カ）		蔵書印：杉園藏、一片月、付：源（屋代） 弘賢書（青色罫紙8行、 中央に「回堂」）	
2 同〔聖武天皇護願文〕 文狩谷掖斎所刻一卷 〔朱字〕	和学講談所？			
3 太政官符紀伊国司 〔案文〕内印十七所 高野山文書 一卷	足水家蔵文書	甲戌夏4月8日（藤原廣□ 〔昭カ〕模）		
4 筑後国高良玉垂神社 所蔵齊衡文書天慶文 書 一卷	筑後国高良玉垂神社	明治10年8月	識語印：樞村〔角印〕、 識語に來歴を詳述	
5 尾張国真福寺所蔵尾 張国解文古鈔本（首 尾四張）	尾張国真福寺		識語に「右四張尾張 國解文真福寺二所傳 ノ古鈔本ノ影寫ノナ リ今タ、書體訓法ヲ 知ンカ為ニ其首尾ノ 一ニヲ抄出スルノ ミ全文贋本ノ如キハ 別ニ徴古雜抄（尾張 國）ニ収ム」とあり ※全文は「徴古雜抄」 27A-2-25-11に収載	
6 阿不幾乃山陵記（文 曆二年三月廿日廿 一日/兩夜盜人乱入 云々）古筆歌切（貼 附）ケツル〔「古筆」 以下朱字〕	京都府下町 田中勘 兵衛教忠		蔵書印（写）：方便智 院、付：田中教忠鑑識	
三（和紙小片表記：共/サ三〔朱字〕）※史料番号：38D-3				
収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考（蔵書・識語印など）	
1 文館詞林の印影	紀伊国高野山如意輪寺		蔵書印：杉園藏、一 片月、台紙貼付	
2 太子寺蔵瑪瑙石記文	河内国上太子寺（今集 古十種所蔵者）		台紙貼付	
3 西大寺蔵歯の図			台紙貼付	
4 東大寺弘安辛懽刻字	東大寺、八幡宮宝庫		台紙貼付	
5 同寺〔東大寺〕尊勝 院印影			台紙貼付	
6 同寺〔東大寺〕良辯 本印	東大寺		台紙貼付	
7 尊勝院蔵法華義記踏 用印影	東大寺尊勝院		台紙貼付	
8 大御記背面文書写			蔵書印：杉園藏、台 紙貼付	
9 龜山院御凶事記			蔵書印：杉園藏、付： 龜山院御凶事記考（栗 田寛）、龜山院崩御記 （佐々宗淳贋写）	
10 御料地目録			蔵書印：杉園藏	
11 神皇正統記序文			奥に「俳諧師一楽軒 極書」とあり	
12 聴十寸鏡				
※ 大業6年2月8日付一 切経断簡	東大寺尊勝院経蔵		見返しに貼付	
※ 十地経断簡	軍医石黒氏		見返しに貼付	
※ 賢劫経断簡	東大寺尊勝院経蔵		1に貼付	
※ 目録			内容：「山城国大原 來迎院如來藏文書其 他 一冊/屋代翁書式 甲 一冊/同 乙 一 冊/三木氏文書模写 一冊/徴古雜抄別本 十一冊」	
※ 東大寺僧衆補任用印 断簡			4と5の間に挟み込み	
※ 興福傳法印影			5に貼付	
※ 華嚴供印			6に貼付	
※ 南朝公武調御文書			9と10の間に挟み込み	
四（和紙小片表記：共/サ三〔朱字〕）※史料番号：38D-4				
収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考（蔵書・識語印など）	
1 古銅印影 數種			蔵書印：杉園藏	
2 古経題跋 數種			「作願中招沖書」、断 簡を台紙に貼付	
3 太政官符紀伊国司 〔案文〕二卷ニ収ム ルモノト参照スヘシ				
4 大師遺告墨本贋写				
5 讃岐国司解文	北白川宮		「三井寺所有円珍ノ 出自和氣氏系図ニ附 属スヘキモノ」	
6 古写本釈日本紀題跋	彰考館	明治7年10月5日	蔵書印：彰考館、台 紙貼付	
7 同〔古写本釈日本紀〕 童子教跋			台紙貼付	
8 佐々木義興文書				

9	内侍所御神楽図式 福德年号	鶴岡座不冷 檀所カ		付:文化5年6月4日付、 源(屋代)弘賢識、 台紙貼付
※	印影数種	松岡調		
五 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-5				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	尾張国笠覆寺文書			蔵書印: 杉園蔵・一 片月
2	同〔尾張国〕性海寺 文書			台紙貼付
3	肥後国釈迦院本縁			台紙貼付
六 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-6				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	諏訪神社文書			蔵書印: 杉園蔵・一 片月
2	祇園社文書〈略写〉 /八坂文書	神田孝平		台紙貼付 (八坂文書)
3	紀伊国吉田庄領家職 云々			
4	称名寺金堂収蔵日記 〈残余〉			同史料見えず
5	讃岐国金比羅宮御頭 屋文書			台紙貼付
6	備前美作率文所文書 〈大仏殿行動楽壇/用 木事記文云々〉			
7	飯尾常房墨痕殘闕 二種			巻首朱印に「元禄三 季庚午初建/玉川文 庫」・「吉良流武家/故 實相承」とあとと記 す
8	琉球国首里城文書			台紙貼付
七 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-7				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	播磨国広峯神社文書			蔵書印: 杉園蔵・一 片月、6と7の間に2紙 分混入カ
2	古筆消息			
3	謙信文書			
4	祇園精舎図			
5	近江国田券 三種			蔵書印: 根岸武香珍 蔵、付: 黒川真頼識 (明 治23年1月)
6	昌泰二年太政官際文	青裳文庫カ		蔵書印: 青裳文庫 (狩 谷成斎蔵書印)、奥に 「此一紙東尾先生勘解 由小路大納言韶光御 ヨリ傳写ス」とあり
7	梅屋山報恩院所蔵文 書			
附録一 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-8				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	正倉院保存文書〔右 上傍書〕/古人押字 八紙			蔵書印: 杉園蔵・一 片月、台紙貼付
2	木籤/牙籤			台紙貼付
3	御物〔右上傍書〕/ 大委国上宮王私集 〈零残〉			台紙貼付
4	慶雲四年七月廿六日			光明皇后御書巻
5	最澄入唐牒			台紙貼付
6	金剛般若経開題草稿 〔右上傍書、朱字〕/ 空海真蹟	有栖川王府	明治37年カ	付: 越中国中新川郡 大岩村日石寺宝物 (明 治37年9月に写の送付 を依頼)、6は8に混入、 台紙貼付
7	仁和寺三十帖子影写 〔右上傍書〕/座右銘 零本影写 (伝來/附 録)	京都居住福 井氏カ	明治32年7月 (明治7年5月2 日カ)	付: 三十帖冊子箱の 銘、6は8に混入、そ れぞれ台紙貼付
8	同〔空海〕真蹟 二 紙/最澄真蹟 一紙			「同〔空海〕真蹟 二紙」が何を指すも の不明確、それぞ れ台紙貼付
9	秋萩帖 (墨撮/一昏)			井口直樹模写、台紙 貼付
10	道風朝臣書〈零/残〉	中院家		

11	伝云〔右上傍書〕/ 貫之朝臣書〈万紫/ 零本〉	旧桂宮		写真 (技手: 伊藤百 □郎)
※	注法華経一部七卷他 抜書			2と3の間に挟み込み
※	高野詣の記 (其四)	1890年以降		石黒軍医総監手記、 新聞記事切り抜きカ、 5と7の間に挟み込み、 7と8の間に挟み込み、 小杉の質問に対する 竹生島宝蔵寺住職峰 覚の返書
※	卅帖朱印			
※	伝智永師の書			写真、8に混入、台紙 貼付
※	紅線毯			8と9、9と10の間の台 紙に2点貼付
附録二 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-9				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	菅公真蹟〈零残/三 種〉			蔵書印: 杉園蔵・一 片月、柏木政矩模 (明 治3年6月)、嘉永5年3 月7日開催展覧会出品 の書 (関口翠岳主催) 含む、台紙貼付
2	義之臨本行成卿真蹟 〈九紙〉			「文化八年六月十二 日 藤原順清摹」と する写しあり、台紙 貼付
3	道長公真蹟〔右上傍 書、朱字〕/行成卿 真蹟〔異体四紙/附 属三昏〕	前者: 多久 氏	前者: 明治23 年9月	
4	鳥羽僧正藏絵 (四紙 /書一紙)			
5	豊太閤自画像	西京高田茂	明治9年3月19 日	
※	中院家古筆鏡中の書			1と2の間の台紙に貼付
附録三 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-10				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	空海真蹟金剛般若経 解題草稿 (零残)	醍醐山光台 院主玉園快 応	明治29年5月	蔵書印: 杉園蔵・一 片月、石本秋園模
2	古筆古今集廿巻	侯爵山内家 (旧土佐国 主)		
3	陽成院歌合〈女郎□ /歌合〉	堀忠韶カ		
4	藤原親子歌合	蜂須賀家カ	明治33年1月 24日カ	
5	教長卿筆理趣経〈首 尾〉		明治28年8月 27日カ	
6	宸翰類 (版本数紙)			
※	道風朝臣書			2と3の間の台紙に貼 付
附録四 (和紙小片表記: 共/サ三 [朱字]) ※史料番号: 38D-11				
	収載史料名	所蔵先	作成・入手年	備考(蔵書・識語印など)
1	東大寺献物帳零断			蔵書印: 杉園蔵・一 片月、台紙貼付
2	造東大寺司牒三綱所			台紙貼付
3	旋頭歌 (伝貫之朝臣 筆)	郷純造		
4	尺牒 (佐理卿筆)	子爵松平頼 美	明治31年11月 30日	
5	位記草稿 (伝行成卿 筆)			写真カ
6	朝数首 (伝貫之朝臣 筆)			
7	□□なつ乃歌 (行成 卿筆)	田中光顕		台紙貼付
8	滄海遺珠	田中光顕		台紙貼付
9	言内檜土浦□方文息			
10	長寛二年都□郡宗川 尋進之文			
11	嘉元二年源氏女□告 根文			台紙貼付
12	一遍上人絵伝の詞 〈零残〉			台紙貼付

付表3 27A-2「徴古雑抄」（1-1～56-1）・「徴古雑抄續編」（57-1～62-1）・「徴古雑抄續編附録」（63-1～）の概要—外形・識語など—

凡例・〈 〉・《 》内は細行・割書、/は改行、□は判読不能文字、〔 〕・（ ）・※は本表作成者註。また、史料名や註記（引用）については、適宜新字体に改めた。  
 ・「蔵書・識語印」・「目次・標目」欄の数字は丁数（収載史料個別の丁数を示す場合は数字の前に「 」で史料名を表記）、オは表面を、ウは裏面であることを示す。  
 ・史料名は目次・標目記載名ないし各史料冒頭に記されたものを採用（「 」付表記）した。その他、内容から判断して付したものの（〔 〕付表記）もある。  
 ・「備考」に記した書き入れ・識語などは、書写・入手年代が特定できるものを中心として限定的に抽出したものを。使用罫紙の情報は全て抽出。

史料番号	巻別題目、その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記（状態、その他）	蔵書・識語印（印面：押印場所）	目次・標目（表記場所）	備考（料紙、書き入れ・識語など）
1-1	阿波一		「棚外不出」右上、「原稿」題目右上	杉園蔵：1オ右下・5オ右下・奥、樺村〔角印〕：奥	4ウ	冒頭に序あり、「阿波國戸籍断簡」明治8年12月、「阿波國板野郡田上郡戸籍断簡（延喜二年）」安政4年正月
1-2	阿波二		「棚外不出」右上、「原稿」題目右上	杉園蔵：1オ右下・奥、樺村〔角印〕：奥	1オ、2オ	
1-3	阿波三		「棚外不出」右上、「原稿」題目右上	杉園蔵：1オ右下・奥、樺村〔角印〕：奥	見返し	「コノ文書副進ノ光明峯寺殿下御處分帳案トイヘルハ〔傍書：御巫清直ノ傳寫本ヲ以テサキニ〕徴古雑抄本編第四上ニ収載スル所ノ建長二年十一月トア〔傍書：ル其原本ハ〕リテ同シク本ノ寺ニ蔵スル者ナリ其處分ノ文中本國大野本庄新庄トモニコ、ニ関係ノ事見エタリ必參照スヘシ」とあり（「東福寺所蔵一条家文書」抜粋）
1-4	阿波四	共/カ三	「棚外不出」右上、「原稿」題目右上	杉園蔵：1オ右下・2オ右下、樺村〔角印〕：奥	1オ・ウ	見返しに「呈」
1-5	阿波五	共/カ三	「棚外不出」右上、「原稿」題目右上	杉園蔵：1オ右下・奥	見返し	
2-1	山城一		概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・奥	見返し	罫紙（賀茂別雷神社・10行）：「賀茂大神縁起」、罫紙（男山八幡宮・10行）：「男山八幡宮縁起書」
2-2	山城二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	「信長公阿弥陀寺由緒之記録」明治8年10月5日謄写
2-3	山城三	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
2-4	山城四	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（帝室博物館・13行）：「来月廿七日御対面事」など→なお、同史料の奥に「右一紙行成卿真蹟手鑑ニ貼附セル所ノモノナリ此手鑑所有者ハ讃岐國高松ノ市人某ナリ明治廿三年三月寶物取調ノ局ニ於テ鑑査ニ係ル」とあり、罫紙（帝室博物館・13行）：「祇園社舊記」など
2-5	山城五	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（帝室博物館・13行）：溝口宗文「法成寺年表」
2-6	山城六	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下	見返し	
2-7	山城七	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下	見返し	罫紙（無地・10行）：「高雄山新護寺々誌」、罫紙（帝室博物館・13行）：「真徳狂歌詠草」
3-1	山城 近江(古文書)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	巨郭のみ（古事類苑稿・文龍蔵）：【大原郷長解】・【京都八坂神社文書】など
4-1	近江一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		罫紙（内務省・12行）：「諸寺文書」
4-2	近江二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（無地・13行）：「近江国浅井郡速水村陣森舊跡徴」
4-3	近江三	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（帝室博物館・13行）：【山城國愛宕郡大原來迎院如來藏文書】など→同史料には明治31年11月の湯本文彦による稿（貼付）あり、罫紙（園城寺・13行）：「智證大師將來求法目録」・「（明治32年11月調）園城寺寶物古文書并古寫經寸法目録」
5-1	河内・和泉・摂津	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		「以上十六張就楓山文庫影写本補臨/明治十二年九月五日樺村」（「観心寺文書」）、罫紙（大鳥神社・8行）：「大鳥神社所蔵新縁起」・「大鳥古文書寶物目録（明治8年10月20日）」など、「大鳥神社蔵流記帳就本書縮写明治八年四月七日」（「和泉國大鳥郡大鳥神社所蔵流記帳」）
6-1	摂津	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（文部省・13行）：「座摩社舊記」、罫紙（帝室博物館・13行）：【摂津國武庫郡西宮廣田大明神由緒書】、罫紙（大阪府〈豊島/能勢〉郡役所・11行）：「野間神社棟札古書寫」
7-1	大和一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	明治10年1月書写「大和國神社略記殘闕」、巨郭のみ（古事類苑稿・文龍蔵）：「東大寺舊藏古文書」など、明治21年8月13日写「本尊目六」（大乗院）、罫紙（帝室博物館・13行）：「七夫寺日記」、明治21年6月13日写「山上雜用明鏡」
7-2	大和二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
7-3	大和三	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
7-4	大和四	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
7-5	大和五	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		罫紙（帝室博物館・13行）：「大和国城下郡鏡作大神社縁起」など、原稿用紙（杉園蔵・30×24マス）：「大和国葛下郡麻村（真言/浄土）宗 当麻寺」

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面：押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考 (料紙、書き入れ・識語など)
7-6	大和六	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
7-7	大和七	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
8-1	紀伊一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (内務省・13行)：「紀伊国/那賀郡貴志荘国主村 (□尔志)」
8-2	紀伊二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下	見返し	罫紙 (和歌山県・10行)：湯川潔「亀山陵考證」など※【明治7年2月2日付「亀山陵考證」関連文書】(和歌山県権参事山本誠之→教部大輔穴戸璣)を付す
9-1	伊勢・志摩 一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下		
10-1	伊勢二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
11-1	播磨	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右峯相記一冊魚住氏所蔵古写本ニ就テ姫路大黒町ノ旅寓ニ於テハシリカキニ筆ヲ下す」(「播磨峯相記」、罫紙 (帝国博物館・13行)：「播磨国衙目録」)
12-1	丹波	共/サ四		杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (東京帝国博物館・13行)：【丹波国返覧】など、東京帝国大学用箋 (6行)に「田制沿革編ハ御調済の上、/至急御返納被下分へし/十月十五日 岡□郎/史料編纂掛御中」と記された挟み込み資料あり、罫紙 (帝国大学・13行)：「祇園社舊記」
13-1	備前二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (帝国大学・13行、文部省・13行)：「感神院政所 (下)」、罫紙 (教部省・13行)：【院庁 (後白河院) 下文 (備後國在廳寄人等)】など太政官符・太政官牒
13-2	備前三	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
14-1	備中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下、奥	見返し	「□社古文書枚挙ニ違アラス今其考證ニ備フヘキ者ヲ採テ之ヲ縮臨ス 明治八年七月」とあり (「備中国/吉備津彦神社古文書」)
15-1	備後	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下・「沼名前神社御鎮座記傳」 1オ右下	見返し	罫紙 (沼名前神社・10行)：「沼名前神社御鎮座記傳」
16-1	安芸 (厳島文書一)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
16-2	安芸 (厳島文書二)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
16-3	安芸 (厳島文書三)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
16-4	安芸 (厳島文書四)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
17-1	因幡・出雲・石見	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (出雲大社 [紙背利用]・13行)：「大社造管記」、罫紙 (日御碕小社 [紙背利用]・10行)：「國幣日御碕小社造管年曆録」
18-1	讃岐一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙 (内務省・13行)：「綾松山之御廟所ヲ改テ/當宮撰社ニ仕度願」・【白峯寺准勅封物目録 (明治十年六月)】など、罫紙 (無地・13行)：「草海権僧正文章二通」ほか
19-1	伊予一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下・「三嶋文書」 奥		明治8年7月3日縮臨「伊予国/大三島文書抜萃」、罫紙 (教部省・13行)：「周敷神社鎮座違違考」
19-2	伊予二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (内務省・13行)：「三島神宮家文書」、罫紙 (帝国博物館・13行)：「伊予三島縁起」、罫紙 (愛媛県・13行)：【明治33年7月2日付愛媛県より小杉宛文書】(愛媛県越智郡富田村大字東村真光寺什物取調書送付に付)
20-1	土佐 (土佐国鑑簡集上)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下		
20-2	土佐 (土佐国鑑簡集下)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右土佐国鑑簡集九冊ハ自筆ヲ以テ寫シモシ筆ヲ□ (人偏に青)々寫モシ又殘簡トテ人ノモテラ請々得ナドモシテ一部ト為シ徵古雜抄土佐國部ニ之ヲ取ム」とあり、罫紙 (帝国博物館・13行)：「古寺院取調書」
21-1	筑前・肥後	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
22-1	豊前 肥後	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
23-1	筑前・筑後・肥前	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (無地・12行)：「河上神社古文書寫」(河上神社文書のうち、明治7年12月14日付、県社河上淀姫神社祠官鍋島春城署名・捺印あり)
24-1	薩摩	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下		
25-1	古文書 (尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武蔵)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (教部省・10行)：「三島神社記」
25-2	古文書 (尾張・三河・遠江・駿河・伊豆・相模・武蔵)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		匡郭のみ (古事類苑稿・文龍閣)：「三河/明眼寺文書」ほか、匡郭のみ (古事類苑稿・文龍蔵)：「遠江/大福寺文書」ほか
26-1	尾張・美濃	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：見返 し右下		



コレクション史料の記述・編成における視角（川嶋）

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面：押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考（料紙、書き入れ・識語など）
27-1	美濃（養老美泉辯）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・3オ右下、 榎邨〔角印〕： 奥		明治39年9月付杉園主人（榎邨〔角印〕）の識語あり、ほか巻末に小杉宛書簡貼付
28-1	飛騨三郡沿革	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下、 榎邨〔角印〕： 奥		杉園主人（榎邨〔角印〕）識語より入手は明治38年々
29-1	越前・越中・加賀・能登・越後・佐渡	共/サ四		杉園蔵：1オ右下		罫紙（外周装飾・無地・13行）：「臨時之祭礼入用之帳」、罫紙（国幣中社気多神社・13行）：【能登国気多神社所蔵文書】、罫紙（内務省・13行）：【八ヶ寺調査記】（永平寺・永光寺など）、罫紙（彌彦神社・13行）：「元歴〔曆カ〕院宣寫」
30-1	加賀・能登・越中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		罫紙（無地・13行）：家康の文書写など挟み込み
31-1	古文書（相模・武蔵）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		罫紙（大國魂神社・13行）：「武蔵国総社六所宮縁起并社傳」
32-1	相模	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		
33-1	安房	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		匡郭のみ（安房国忌部系図、細矢蔵書）：「安房国忌部（之）家系」
34-1	下総（香取文書一）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下		明治20年10月「就原本本校主点」とあり（「香取大宮司所蔵文書」）
34-2	下総（香取文書二）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		匡郭のみ（古事類苑稿・文龍蔵ないし文龍閣）：「香取本所古文書」・「香取舊大綱宣所蔵文書〈香取國雄〉」
34-3	下総（香取文書三）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		匡郭のみ（古事類苑稿・文龍蔵ないし文龍閣）：「年中目録」（舊分飯司所蔵（伊藤康蔵））・「香案主家文書〈香取實篤〉」など
34-4	下総	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下		罫紙（帝国博物館・13行）：「匱建藤原文貞公祠書」（明治10年5月13日付）ほか→明治12年2月碑立
35-1	古文書（甲斐・常陸）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		
36-1	常陸	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下・奥		
37-1	下野古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		匡郭のみ（古事類苑稿・文龍蔵）：「日光山文書」カ
38-1	古文書（下野・陸奥・出羽・若狭・越前・信濃・丹波・丹後・但馬・播磨・備前・備中・安芸・周防・長門）	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		罫紙（教部省・13行）：「備前国御野郡」、罫紙（無地・10行）：「長門国一宮文書」、罫紙（内務省・13行）：【足利尊氏・直義理書状写】（冒頭に「松原〔ママ、平カ〕拱津守義行集録セル古文書ニ取ル長門国二宮文書ニ」とあり）
39-1	陸奥一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		
39-2	陸奥二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		罫紙（帝国博物館・13行）：「留主家古文書」
40-1	図画一中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・2オ右下	1オ	罫紙（無地・13行）：「宮内省諸陵掛検注写」（群馬県下古墳巡回に付、明治11年11月20日付）、匡郭のみ（無地、外枠二重）：横山由清述「古代陶器考」
40-2	図画一下	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（帝国博物館・13行）：「棺発掘届」（明治24年1月12日付、堀切角蔵）・「埋蔵物處分之儀二付届」・「発見古物考按察」（信濃国諏訪郡永明村大塚の古物に対する小杉の所見）など、罫紙（内務省・13行）：「古器物寫真詳細目録」など
40-3	図画二上		概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・2オ右下	1オ	
40-4	図画二中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙（帝国博物館・13行）：「埋蔵物発見二付上申」など古墳発掘に関わる行政文書（写）多数あり
40-5	図画二下		概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・2オ右下・奥	1オ	罫紙（教部省・10行）：「名古屋諸陵墓考の中（白鳥御陵）」、匡郭のみ（無地）：「白鳥山後ヨリ出ル所ノ古器圖」ほか、明治8年2月17日就栗田氏蔵本写「美濃国所出」器物各種図、罫紙（内務省・13行）：「牛塚考」（下野国河内郡）など
40-6	図画三上		概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・2オ右下・奥	1オ	罫紙（教部省・10行）：「石上神社禁足地発掘之儀二付御届書」（明治7年8月29日付）ほか、罫紙（教部省・13行）：「大麻比古神社宮司御零代之義上申書」（8年9月24日付）、常陸国鹿島正等寺駅路鈴の図に「明治10年5月杉園」の識語あり
40-7	図画三中		概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
40-8	図画三下	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下		罫紙（臨時全国宝物取調局・13行）：紙背利用（白紙）
40-9	図画四上	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・3オ右下、 「博覧會事務局」・「博物館」： 各所にあり	1オ・ウ	
40-10	図画四中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：3オ右下	見返し	罫紙（帝国博物館・13行）：「石剣記」ほか、行政文書類（写）多数あり

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面：押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考 (料紙、書き入れ・識語など)
40-11	図画四下		概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		「固閑文書就山田有年蔵本贍写/明治13年9月小杉樞郎」とする写あり、「右釈尊図一卷〈十図〉就松岡昭義蔵/本模写之弘安釈尊図(取第3巻)可参看者也/明治十三年九月 小杉樞郎」とする写しあり、罫紙(大茂堂・21行〈全〉)：【土偶土馬図】、罫紙(無地・10行)：「石柳鑿出之二付御届」(明治14年3月29日付、阿波國麻植郡西麻植村土族 笠井与三平)ほか、罫紙(小御門神社事務所・13行)：【明治7年9月18日発見器物の件(千葉県下総国印旛郡吉高村字三角谷)】
41-1	一上 古文書		概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右大安寺伽藍縁起流記資材帳一卷今ハ大和國添上郡菩提山村菩提山正勝寺ニ所蔵ス明治二十二年一月全國寶物取調局委員長ニ隨行シテ之ヲ點檢セリ樞郎之ヲ記ス又影寫本ハ別ニ取ム」とあり(「大安寺山綱言上/伽藍縁起并流記資材帳」)、「右縁起一幅大橋長意カ原本ニ就テ贍臨/スル所ノ一冊ヲ以テ贍寫ス/明治八年十一月 小杉樞郎」・「屋代翁カ曾テ原本ヲ影寫スル所ノ巻/子本ニ就テ一校傍書ス/明治十二年九月 樞郎又識」とあり(「大安寺縁起寫」)、「右二卷西大寺所蔵殘闕傳寫/本也以大橋長意懇請寺僧而遂寫之本贍臨功畢/明治八年十一月 小杉樞郎」・「同廿一年八月全國寶物取調ノ事ニ從ヒテ本寺ニイタリ住職佐伯氏ニ就テ資料帳ノ原本ト比較/スルニイサ、カ差異アルヲナシタマ書體墨色ノ古風アルニ及バザルヲ憾ム 樞郎又識」とあり(「西大寺資材流記帳卷」)
41-2	一中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
41-3	一下	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	天平宝字元年十一月十二日付専当田使曾格連乙万呂の解文に「コノ解文ト同種ニシテ天平勝寶七歳五月三日ノ解文写別ニ大和國文書中東大寺文書部ニ取載ス比較スヘシ」とあり
41-4	二上 古文書		概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下	1オ・ウ	「右聖徳太子御手記〔傍書：一云本願縁起〕雖似非真物以/弘賢先生池底齋書所取載縮臨寫/明治九年八月八日 小杉樞郎」とあり(「四天王寺御手印記」)、「今一本本寺寺領田畠目録及消息類ノ文書アリ/其奥ニ関東御祈禱諸寺トアル卅四寺院中ニ本寺モ入タリ其文書ハ河内國部ニ取載ス参照スヘシ」とあり(「河内國古市郡西林寺事」)、「右一卷尾張國真福寺所蔵券也就影寫本/縮臨了于時明治十年三月廿五日/樞郎」とあり(「七次寺年表」)、「右空海傳記以屋代先生所蔵古寫本縮臨/明治九年二月廿一日 小杉樞郎」とあり(「贈大僧正空海和上傳記」)、「右殘篇卷子本二紙金澤文庫藏館零片也就/影寫所影寫一冊贍臨/明治十年八月 樞郎」とあり(「選告諸弟子等」)、「贈大僧正空海和上傳記」の殘篇カ)、「右古寫本一卷就前田從三位家所蔵縮臨/明治十二年三月五日〔左傍書：以年中行事秘抄一校三八〕 樞郎」とあり(「神祇官勘文」)
41-5	二中甲 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右法隆寺東院資材帳ハ同寺中院所蔵/贍寫本ニ就テスヘテ原書ノマ、ニ寫ノ小杉樞郎、天平勝寶七歳五月三日付の田使曾格連弟麻呂の解文に「コノ解文ト同種ノ天平寶字元年十一月十二日ノ解文/正倉院伍號小櫃ニ蔵メタル所ヲ以テ別ニ雜抄一(下)ニ取載/セレハナホ比較シテ相互ノ小異ヲ考フヘシ」とあり、「原本音羽町護國寺ニ蔵スル所ナリ影寫本ニ冊教部省ニアリ余教部ニ職ヲ拜スル/明治八年九月十五等出仕古筆了悦ニ影寫セサスル時ハシルハシル拔萃シテ考證ニ供フ」・「此書明治廿三年三月臨時全國寶物取調局ニ役事シテ本寺ノ古器/古文書點檢ノヲリ再ビ之ヲ発見ス取調局ニ於テ参考ニ充ンガ為ニ少シク書ヌクベキ所モアレバ寺僧ニコヒテ借出シ書ヌキ了テ後私ニモ暫シ留メ/此冊ニモノセザリシキ、ヲコトビ別本ニ補寫シ第二下(乙)卷ニ取メ置クサレバ其/別本ト云モノト併セテ全豹ヲ見ベキモノトス」とあり(「諸寺縁起集抜抄」)
41-6	二中乙 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下	1オ	「右資財帳及租稅録合三卷就小中郡氏/秘本模寫之/明治九年六月廿六日 小杉樞郎識」とあり(「秦公書〈資材帳/租稅録〉」)、「右伊勢國多氣郡長谷村近長谷寺資材帳寫/一巻就御巫清直蔵本贍寫畢/明治九年七月三日 小杉園」とあり(「近長谷寺資材帳」)、「右天守府觀音寺資材帳一巻於/東大寺文書櫃底所獲云以大橋長意影寫本再影臨畢/明治九年十一月八日 樞郎」とあり(「觀音寺資材帳」)
41-7	二下 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
41-8	三上甲 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙(無地・10行)：「園城寺古文籍ノ中/相大師入唐牒、匡郭のみ(古書類菴稿・文龍藏)：「蘆鶉集拔萃<影考館/御蔵本>」、「全篇ハ徵古牒抄別本三ノ卷ニ取ム就テ見合スヘシ」とあり(「龜山院御凶事記拔萃」)

コレクション史料の記述・編成における視角（川嶋）

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面：押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考（料紙、書き入れ・識語など）
41-9	三中甲 古文書		概要記載あり	杉園蔵：2オ右下	1オ・ウ	「右一冊以小中村氏蔵本模臨寫/明治八年三月 小櫛園」とあり（「越中國官舎納殺交替記」）、「本社祭神考證ノ事ニ就テコノ原本ヲ教部省ニ/徵サル其ヲリコマカニ目撃スルニ延喜ノ真物トハ見/エス紙筆トモニアラシキモノ也サレトサスカニ二百年以内/ノ物ニハアラサルヘシ按ルニ本書ノ寫シナラシカ後來ノ/支證ニ供ヘンカ為ニ別ニ影寫シテ取メオク/明治八年十二月十日 〔榎郡花押〕とあり（「大鳥神社流記帳」）、「本社祭神考證ノ事ニ就テコノ縁起ノ原本ヲ流記帳ト/共ニ教部省ニ徵サレテ之ヲ目撃スルニ果シテ贋物ナルコト/一視瞭然タリ信スルニ足ラス/明治八年十二月十日 小□園〔榎郡花押〕とあり（「大鳥神社縁起帳」）、「右一冊以栗田氏蔵本寫畢/明治八年十二月 小杉榎郡」とあり（「壬生官務家藏断簡」）、「就栗田寛本轉寫時明治七年九月十二日在教部省官舎/小杉榎郡」とあり（「熱田神宮踏歌神事詔文」）、「謄紙（教部省・13行）：「石上布留神宮<傳記/要録>」（9年3月25日筆）
41-10	三下甲 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下	1オ	謄紙（東京帝室博物館・13行）：「長王跋文古経、明治31年11月付の「傳教大師度歴」（湯本文彦稿）を収む
41-11	三上乙 古文書		概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	謄紙（帝国博物館・13行）：「東大寺別当次第（拔萃）」
41-12	三中乙 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	謄紙（帝国博物館・13行）：「南都大佛殿銅燈籠」ほか、謄紙（帝国京都博物館・13行）：山城国宇治郡山科村勧修寺什宝「仁王経良寶疏」についてのメモ、謄紙（内務省・13行）：「延暦寺寶物目録」ほか、明治21年6月23日点検分の「東大寺所蔵目録」（文書・書籍）、謄紙（教王護国寺・10行）：【小杉からの照会に対する回答書】、謄紙（石山寺・13行）：【小杉からの照会に対する回答書】、謄紙（臨時全国寶物取調局・13行）：「東大寺要録」の抜き書き
41-13	三下乙 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下	1オ・ウ	謄紙（無地・8行）：「上野十四郡諸社神名牒」、謄紙（無地・10行）：「春日并鹿嶋記」、謄紙（東京帝室博物館・13行）：「本免田文書」ほか
41-14	四上 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下	1オ	「右一冊栗田寛手寫本贋續成/明治九年三月十日 小杉榎郡」とあり（「新抄格勅府」）、「右類聚既驗抄（零本）一冊尾張國真福寺/舊傳秘襲ノ書籍ノ一也堀氏續群書類從ニ収載スル所ノ影寫本ヲ以テ再ヒ之ヲ/影寫畢/明治九年六月五日 小杉園」とあり（「類聚既驗抄（神祇/十）」）、「右一巻御座直藏書也借閱之際/蒼黃縮臨/明治〔左傍書：十八年六月傍注〕九年八月十五日小□〔木へんに魂〕園/本文阿波國關係ノ文書有り徵古撰抄（阿波三）/ニ取ムコ、ニ見エタル阿波國大野庄ニ参照スヘシ」とあり（「建長二年處分」）
41-15	四中 古文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	「以群書類從所載本一枚畢/明治十年四月三日 杉園」とあり（「保元四年大問書」）、「以群書類從所載本一枚加朱書畢/明治十年四月十日 杉園」とあり（「天文二十年大問書」）
41-16	四下 古文書		貼付あり（文部省学術課の貼紙で詳細見えず） 概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・奥、榎村〔角印〕複数	見返し	「新抄ト題スル外記ノ記録殘闕五帖（割書略）從四位前田君ノ御藏本ナリ今茲披覽スルヲ得テ其要旨ニ二ヲ拔萃シテ史料ニ充ツ」とあり（「新抄」）、「右諫草一冊希世之珍書也今茲以/從四位菅原原嗣君御藏本影寫了/明治十年七月八日 小杉榎郡〔榎村角印〕とあり（「平政連諫草」）、「右南朝記発端書一冊以松屋與清所蔵/古寫本縮臨畢/明治十年九月 杉苑〔榎村角印〕とあり（「南朝記発端書」）、謄紙（教部省・13行）：「三条實豊卿記」、右四張彰考館本武家儀式後附文書/明治十一年写之〔榎郡花押〕とあり（「武家儀式後附文書」）、「右法家文書目録就小中村氏蔵本臨曆/明治五年二月 小杉榎郡〔杉園蔵印〕とあり（「本朝法家文書目録」）
42-1	五上 家記抜抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	「右貞信公記（十一本）九條家御珍藏秘冊也偶得僥倖拜見之間摘要謄寫畢/明治十二年三月又八日榎郡識」とあり（「貞信公記」）、謄紙（内務省・13行）：「左経記」
42-2	五中甲 家記抜抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
42-3	五中乙 家記抜抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	謄紙（修史館・10行）：「師遠誦珠記」
42-4	五下 家記抜抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	
42-5	六上 家記	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下、奥	1オ	「明治十二年一月廿五日 榎郡（一校）」とあり（「勸修寺家所蔵 皇代曆裏書（親長卿自筆）」）、「右門業記四卷（恐クハ殘闕ノモノナルヘシ）從三位菅原原嗣君秘襲/シ給フ所ノ卷子ナリ今茲縁故アリテ縦覽ノ間其/至要ノ條件ヲ採畧シテ考證ニアツ/明治十年三月廿五日 小杉榎郡」とあり（「門業記（抜抄）」）
42-6	六中甲 御記・記録抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	「頼之記一冊就楓山御文庫本贋寫成/明治十二年一月十五日 榎郡」とあり（「細川頼之記」）

史料番号	巻別題目、その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面: 押印場所)	目次・標目 (表記場所)	備考 (料紙、書き入れ・識語など)
42-7	六中乙 日記抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下	見返し	「就柳原家影写本摘要(明治十一年/十月廿日) 榎郎」とあり(「醍醐/理性院所蔵古写本/太元秘記(抄)」)、右一帖綴右群書類従九百廿七ニ取載スル所ニ就テ「勝臨」明治九九九〔榎郎花押〕とあり(「雜訴決断所結番交名」)、「右日用工夫集就前田家古写本抜萃而備考證/明治十一年三月 小杉園」とあり(「空華日用工夫略集」)、「右日件録抜尤就彰考館本再抜抄而備考證/明治十一年四月 小杉園」とあり(「臥雲日件録」)、「右日録前田利嗣君舊蔵スル所ノ碧山自筆ノ零本/五冊ニ就テ其要旨ヲ二三抄摘シテ以テ考証ニ充ツ/明治十一年四月 小杉園」とあり(「碧山日録」)
42-8	六下 日記抄	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下	見返し	「明治十二年八月十七日識/小杉榎郎」とあり(「藤涼軒日録(下)」)
42-9	七上 家乗・記録	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下、 「貝塚天満宮御移住記」の奥	見返し	「右壹冊以彰考館御本謄写/供考證 明治九年十月榎郎」とあり(「貞叢雅・閑檢書」)、「(前略) 今彰考館本ニ就摘要/謄写シ考證ノ一端ニ供スト云/明治九年十一月 温郷」とあり(「筒井家記」)、「罫紙(東京帝室博物館・13行):「師茂日記録」など
43-1	七中甲 制度一	共/サ四		杉園蔵: 1オ右下	見返し	罫紙(帝室博物館・13行):【図書寮記録数種】
43-2	七中乙 制度一	共/サ四		杉園蔵: 2オ右下	1オ・ウ	見返しに序言あり、罫紙(帝国博物館・13行):「湯川傳記署」など
44-1	七下 法律	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下・2オ右下、 白雲書庫:「同(建武)二年條々以下」奥、 南部家蔵:「祇園社曆應二年下知状」1オ右下	1オ	罫紙(宮内省・13行):「下廣田神社式條」
45-1	八上 伝記・記録	共/サ四		杉園蔵: 2オ右下、奥	1オ	「右勝元記一冊以續群書類従五百七十九/所載謄写畢/明治十年三月十日 小杉園」とあり(「細川勝元記」)、「以前田從三位殿所蔵古写本一校傍書了/明治十一年十二月八日 榎郎」とあり(「細川政元記」)、「右政元記政頼記合冊以續群書類従卷五百/八十一所載謄写畢/明治十年三月十八日 榎郎」とあり(「瓦林政頼記」)、「右九郎殿物語一冊ハ前田從三位利嗣君所蔵ニシテ/當時ノ古写本ナリ今茲故アリテ拝借閱覽之/間走筆謄写シテ修史ノ備用ニ充ツ/明治十年八月七日 杉村」とあり(「九郎殿物語」)、「右九郎澄之物語一冊又利嗣君ノ蔵書ニシテ/實ニ記者ノ親筆ナルヘシ是品拝借閱覽ノ間/謄写修史ノ備用ニ充ツ/明治十年八月十日(榎郎花押)」とあり(「澄之物語」)、「岡本紀一冊鳩氏續群書類従六百七十二ノ卷ニ/取載スル所ノモノナリ今茲忠恕ニ就テ類從ノ/草本ヲ借閱シ倉卒之ヲ臨写畢/明治九年九月 小杉榎郎」とあり(「岡本記」)
45-2	八中 伝記・戦記	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下、奥	見返し	「二川物語一冊就彰考館本謄臨/明治十一年一月八日 小杉園」とあり(「二川物語」)、「右無題書就彰考館謄臨/明治十一年一月十日 小杉園」とあり(「澤藏軒記事」)、「右足利季世記八巻機山文庫御本謄寫/明治十二年二月 小杉榎郎/以足利歴代記(鳩氏/所蔵)一校明治十三一/以浅草文庫本一校同(明治)十三二/以彰考館本殘闕記録加注十三三」とあり(「足利季世記」)
45-3	八下 日記	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下、奥	見返し	「以白河家蔵本抜萃畢/明治十一年八月(榎郎花押)」とあり(「東寺執行日記」)、「明治十年九月一閱ノ際蒼黄之間抜萃畢 小杉榎郎」とあり(「多門院日記」)
46-1	九上 古文書(雑々文書一)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下	見返し	原稿用紙(21×20マス):【鳩氏所蔵明月記記載内容】、「右俊明極行狀一則以彰考館御本/謄寫 榎郎/明治十八年ハ正成公ノ五百年祭ヲ尊啓セラル、カ故ニ/七月廿五日井上不鳴湊川神社ニ參詣シ廣嚴寺ニ至テ/此行狀古寫卷ヲ以テ謄寫ス今其謄寫ヲ得テ一校/傍注スル所ナリ同年八月廿五日」とあり(「明極行狀」)、「以彰考館御本抄録/明治十一年十二月 榎郎」とあり(「足利学校條目」)、「右高麗國被誑遣大寺注文一卷以前田/利嗣君御本蔵原本謄写之/明治十二年八月 杉園」とあり(「高麗國社誑遣大寺注文」)、「右一札就續群書類従五百七十八所取載/明治十年八月」とあり(「應仁乱消息」)、「右雜用帳一卷(料紙小杉原/十四枚) 就松岡明義/蔵本謄寫/明治十四年五月 榎郎」とあり(「文明十九年雜用帳」)
46-2	九中 古文書・日記録(雑々文章二)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下	見返し	罫紙(臨時全国宝物取調局・13行):【花押写】、罫紙(帝国博物館・13行):「雑役庄所納文書」
46-3	九下 古文書・日記録(雑々文章三)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下	見返し	「右最初二張ハ曾テ修史館御本ヲ以寫シ得ツルヲ/明治十五年一語一言ヲ披繙スルニ不圖モ取載セシヲ見認テ九月十七日十八日卒ルニコノ六張ヲ補寫/シテ完全ノ者トス」とあり(「大阪(冬陣/夏陣)次第」)、「罫紙(大教院・10行):「臨濟宗・10行」:「山城國葛野郡龍翔寺之記」、罫紙(無地・8行):「山城國相國寺申」、罫紙(無地・8行):【御尋ニ付申上狀(明治十年十一月二日)】
46-4	十上 古文書・日記録(雑々文章四)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵: 1オ右下	見返し	罫紙(帝国博物館・13号):「日野資枝卿の文」、罫紙(文部省・13行):「龍谷伏龍祠記」、罫紙(文龍蔵・13行):「蒲生君威墓表」、巨郭のみ(古書類苑稿・文龍蔵):「日光山記事(数種)」ほか



コレクション史料の記述・編成における視角（川嶋）

史料番号	巻別題目、その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記(状態、その他)	蔵書・識語印(印面・押印場所)	目次・標目(表記場所)	備考(料紙、書き入れ・識語など)
46-5	十中 古文書・旧記録(雑々文章五)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下	見返し	匡郭のみ(古事類苑稿・文龍閣):「毛利家」ほか、匡郭のみ(詞の組多て上):「大和田和泉守覚書」、匡郭のみ(古事類苑稿・文龍蔵):「御宮御連歌」ほか、原稿用紙(大八洲学会用紙・33×26マス):「公卿補任」、罫紙(史籍集覧・観奕堂蔵):「三州大樹寺寶庫秘書」ほか、罫紙(無地・10行):「摂州東成郡荒陵従二位家隆墓石」ほか、罫紙(東京大学・12行):「播州明石忠度塚縁起」ほか、罫紙(無地・7行):「吊平忠度文(并序)」
46-6	十下 古文書・旧記録(雑々文章六)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下	見返し	罫紙(帝国博物館・13行):「信長公文書」ほか、罫紙(中村蔵版・12行):「前田利家聊書牘」ほか、原稿用紙(杉園蔵・30×24マス):「中村翁質問二答辨」
46-7	十一上 古文書・旧記録(雑々文章七)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下・「新蘆面命」1オ右上、河井庫太郎:「新蘆面命」1オ中段、川路氏印:「正路日記」1オ右下、神祇官学徒栄木舎五庫:「正路日記」1オ右下	見返し	
46-8	十一中 古文書・旧記録(雑々文章八)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下	見返し	罫紙(帝国博物館・13行):「文禄文書」
47-1	十一下甲 伝疑一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下・「歌経標式」1オ右下・「齋部氏家牒」1オ右下・「元要記(抜抄)」1オ右下・「行基式目」1オ右下・「義経記(安土本)」1オ右下	見返し	「明治十七年九月以菊亭家所蔵古寫本/比較如寫本傍注畢」とあり(「歌経標式」、明治12年12月大橋長意手写本より挿着「元要記(抜抄)」、右式目真書ナラサル一讀瞭然ナリトイヘトモ屋代氏/池底叢書ニ収載スル所ノ者ニ就テ之ヲ謄寫シ考/古俗徴ノ要ニ課ス/明治九年三月 楓邨」とあり(「行基式目」)、「右神名役録三本イハユルハ幡宮長帳ト云モノ、首編ノニシテ其文拙劣ヲ極ムルノミナラス事實大ニ齟齬セル贋/書タルト論ノ外ナレトモイサ、カ思フヨシナキニアラサレハ彰考/館本ニ就テ一讀ノ次ニ其要ヲイサ、カ摘抄ス/明治十一年十二月 小杉楓邨」とあり(「神名役録」)、「明治十一年十二月卅一日修史館當直ノ餘暇/楓山文庫御本ヲ以テ摘寫功了 小杉楓邨」とあり(「八幡宮略記長帳」)、「右異本義経記(二冊) 楓山文庫御本ヲ以テ謄写シ畢」・「明治十二年九月十五日 楓邨」とあり(「義経記(安土本)」)
47-2	十一下乙 伝疑二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下	見返し	「以佐藤方定本影寫/明治十年七月二日 小杉楓邨」とあり(「大同類聚方」)、「右喜撰式孫姬式二冊就彰考館所蔵/古鈔本書寫畢 楓邨」とあり(「喜撰式」・「孫姬式」)
48-1	十二上(武家文書上一・二・三)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:2オ右下	1オ・ウ	
48-2	十二中(武家文書中四・五)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:2オ右下	1オ・ウ	
48-3	十二下(武家文書中六・七止)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:2オ右下、楓村〔角印〕:奥	1オ・ウ	奥に「右武家文書七冊以松浦伯爵家/蔵本課瀧川惟善書寫了/明治卅五年九月 杉園居〔楓村角印〕」とあり
49-1	十三上(征韓文書上)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下	見返し	
49-2	十三中(征韓文書中)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下		罫紙(参謀本部・13行)・(文部省・13行)・(宮内省・13行)・(帝国博物館・13行):【加藤肥州遺書目録】
49-3	十三下(征韓文書下)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下		罫紙(帝国博物館・13行)・(臨時全国宝物取調局・13行):「韓陣文書」ほか
50-1	十四上(古曆上)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:1オ右下、阿波國文庫:1オ右下・「永久三年具注曆」1オ右下・「貞應二年假名曆」奥		
50-2	十四下(古曆下)	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:2オ右下	1オ	「右大和国東大寺内尊勝院所蔵(當時東大寺中/總持院所有)仁王經所談俱舍頌/卷十九殘闕以此曆背書寫之卷尾健保第三年初秋廿七日始行/之記載セリ聊一端ヲ臨摹シテ考古ノ用ニ備フ蓋シ以長曆推/之建久八年曆ナリ/明治九年十一月 小杉園」とあり(【建久八年曆】)、「右興福寺尊勝院所蔵因明四相口疏略文集卷末一卷/此曆ノ裏ニ書ス今其曆ノ體裁ヲ見知ンカガニ僅ニ一端/ヲ抄臨シテ考古ニ備フ/明治九年十一月 小杉園」とあり(【建久二年曆】)、「右九張東大寺文書抄ニ後附セルヲ/採テコ、ニ編入ス按スルニ文書中/コノ曆ノ背面ヲ用ヒシモノ有ルナルヘシ/明治十一年七月 小杉園」とあり(「貞應二年曆」)、「右大永曆殘餘數格ハ前田利嗣君歳奉シ給フ所ノ/享祿傳寫本類聚三代格裏背ニ存スル者也今茲/三代格影寫スルツイテヲ以テ卒忽ニ之ヲ抄寫シ畢/明治十年九月 楓邨」とあり(「大永(二 四/五 六)年」)
51-1	十五中 過去帳 二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵:2オ右下	1オ	

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面：押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考 (料紙、書き入れ・識語など)
52-1	十五下 分限帳	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙 (帝国博物館・13行)：「石大將軍御家人腰」ほか、罫紙 (無地・10行)：「頼朝公御治世知行帳」
53-1	十六上 歌一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下	見返し	
53-2	十六中 歌二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
53-3	十六下 歌三	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
54-1	十七上 地理一	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下・「錦の経緯」 1オ右		
54-2	十七中 地理二	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下、新見文庫： 「隅田川乃橋 柱」1オ右		罫紙 (帝国博物館・13行)：前田夏蔭「濱名虎橋考」、罫紙 (遠藤蔵版・12行)：「廣隆寺縁起資財帳跋」、明治19年10月写「市邊忍南別命山陵考」、罫紙 (神宮教院・10行)：岡吉胤「多摩考」、罫紙 (無地・13行)：佐々木喜蔭「比婆山説辨疑」
54-3	十七下 地理三	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		罫紙 (無地・13行)：【明治25年9月1日付小杉宛書簡 (唐招提寺)】
55-1	芸術品	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙 (博物館・13行)：「築山庭造傳」、匡郭のみ (古事類苑稿・文龍蔵)：「石版」
56-1	※未製本分31種					罫紙 (博覧会事務局・8行)：「字引節用集」ほか、匡郭のみ：「上記鈔譯」(抜粋)、罫紙 (無地・10行)：「藤原文貞公肖像記」ほか、罫紙 (帝国博物館・13行)：【菓子関連抜書】ほか、原稿用紙 (無地・25×24マス)：岩本正方「内蔵寮饗饌を設けし事の考」、原稿用紙 (国書刊行会・23×20マス)：「南部晋所蔵遠州文」、匡郭のみ (無地)：「日向國日出木下家所有文書」ほか、罫紙 (東京帝室博物館・13行)：【滋野井中将宛書簡】ほか、原稿用紙 (美術史編纂用紙・22×20マス)：西周所蔵【石橋新右衛門宛書簡】ほか、原稿用紙 (か可□・24×21マス)：【3月19日付書簡】ほか、罫紙 (彌彦神社・13行)：「元暦院宣乃寫」、罫紙 (好古社・10行)：【柴邦彦書簡】
57-1	阿波一上	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	
57-2	阿波一中	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	嘉永4年6月写「古本ミよしき」、「三好成立記就野口年長蔵本寫之/以類従本一校了安政五年七月/小杉園」とあり (「三好家成立記」)、「此一冊以類従本寫成/安政五年八月 小杉園」・「彰考館本十河物語ト題スル古写本ニ就テ一校/傍書了奥書云々後人所為也/明治十二年一月十日 小杉園」とあり (「十河物語」)
57-3	阿波一下	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右三好別記一冊以野口年長蔵本謄寫了/明治元年十月 □ [木へんに魂] 園」とあり (「三好別記」)、「右一冊阿波志編輯引用書類函底ニ探り得テ謄寫シ畢按スルニ編集ノ料/ニ徴サレシ記録ナルヘシ/明治三年十二月 小杉園」とあり (「高越寺舊記」)
57-4	阿波二上	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	
57-5	阿波二中	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	明治20年4月20日写【大阪阿弥陀池住居烏居兼一所蔵文書】、罫紙 (無地・12行)：「森監物由緒書」ほか、罫紙 (無地・10行)：「景品写」
57-6	阿波二下	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右神社改帳一冊或蔵本ヲ以テ謄寫シ畢/明治元年十月二日 [榎の花押]」とあり (「郡代所覽保御改神社帳」)
57-7	阿波三中	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	安政6年8月写「識遺編雜記 (抜萃)」
57-8	阿波三下	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙 (帝国博物館・13行)：「軍装紀談かきみき」など、罫紙 (農商務省・10行)：「大安寺磨崖碑文」
57-9	阿波四中	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	安政3年3月写「君公年中御式略」
57-10	阿波四下	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右矢野神山八倉比賣社記ト云モノ或人ノモテラフ/除得テ考證ノタメニ蔵書トス/明治二年九月 [榎の花押]」とあり (「天石門別八倉比賣神社記」)、「右神山記一冊阿波志編集草稿引用書/類ノ函底ニ探り得テ燈前ニ謄寫ス/明治二年九月 [榎の花押]」とあり (「矢野神山記」)、「右十郡神社傳記ハ寛政五年阿波志編輯ノ料トシテ各郡中ノ舊聞ヲ探訪ノ命アリテ/其神官等ヨリ注進スル所ノモノナリ今茲阿波/志草稿書類ノ函底ニ索メ得テ其要ノ領ノミヲ抜萃シテナホ参考ノ為ニ阿波志ノ文ヲモ傍書シテ後勘ノ一助ニ備フ/明治三年三月 小杉園」とあり (「阿波国十郡中神社書上旧記書抜」)
57-11	阿波五上	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下・「家政公御 入國以後慶長 貳年御改被 仰付諸士拜知 高并處付御帳 之写」1オ右	見返し	「右誌士拜知高處付帳□本校合/備書了/安政六年七月 小杉真瓶」とあり (「同 (蜂須賀家) 慶長二年改誌士拜知高處付帳」)
57-12	阿波五中	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
57-13	阿波五下	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	明治14年8月写「元禄年中美馬郡拜村麻植郡川田村百姓出入覚書」

コレクション史料の記述・編成における視角（川嶋）

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面：押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考(料紙、書き入れ・識語など)
57-14	阿波六上	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	「右有人帳以野口年長自筆本影寫/小杉明發識」とあり（「大坂陣有人帳」、原稿用紙（無地・20×20マス）：「紀事一即」）
57-15	阿波六中	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
57-16	阿波六下	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	
57-17	阿波七上	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
57-18	阿波七中	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙（名東県・8行）：【阿波国郡村】、罫紙（東京大学・12行）：「徳島城地考」、明治20年3月31日小杉謹識「〔蜂須賀家/三代〕創業文武有功土小履歴」
57-19	阿波七下	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下・2オ右 下	見返し	
57-20	阿波八上	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	見返し	原稿用紙（修史館・20×20マス）：「後二条閑白師通公記」、罫紙（文部省10行）：「江記」など、原稿用紙（文部省・20×20マス）：「仁部記」、罫紙（内務省・10行）：「三好長輝」など、罫紙（参謀本部・10行）：【若州湯川氏覚書】
57-21	阿波八下	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下・「三好略記」 2オ右下・「土 御門院御遷幸 考證料」2オ右 下、阿波國文 庫：「土御門院 御遷幸考證料」 2オ右下・「山 陵志」1オ左下、 樫村〔角印〕・ 楯園〔角印〕： 「山陵志」奥	見返し	原稿用紙（大八洲学会用紙・33×26マス）：「古書備考」、罫紙（無地・20×20マス）：明治21年12月15日写「三好略記」、罫紙（文部省・10行）：「東常縁開書」、明治3年11月の識「山陵志」、罫紙（名東県・8行）：「淳仁天皇土御門院天皇御遷式新□正道印記」
57-22	阿波九 一	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	1オ～4ウ	
57-23	阿波九 二	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
57-24	阿波九 三	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下	1オ～3オ	
57-25	阿波九 四	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右 下		
57-26	阿波十 一	共/カ三	概要記載あり、右 下直書き「共四」	杉園蔵：1オ右 下		
57-27	阿波十 二	共/カ三	概要記載あり、右 下直書き「共四」	杉園蔵：1オ右 下	1オ・ウ	
57-28	阿波十 三	共/カ三	概要記載あり、右 下直書き「共四」	杉園蔵：1オ右 下	1オ	
57-29	阿波十 四	共/カ三	概要記載あり、右 下直書き「共四」	杉園蔵：1オ右 下		
57-30	阿波十一上	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下・2オ右下・ 「天保十一年 十一月御社詣 で付□御参詣 御列書」1オ右 下	見返し	罫紙（徳島藩・8行）：「大阪住人御銀主始神品物新古取調帳」、原稿用紙（杉園蔵・30×24マス）：「阿波國関係典故かきぬき」、罫紙（臨時全国宝物取調局・13行）：「徳島縣山岳崩壊に関する話」
57-31	阿波十一中	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下、新居座：「田 宮村天照太神 宮神輿□□帳」 1オ中央下・「山 神勸請御触」2 オ右下	見返し	罫紙（教部省・10行）：野口年長意見「忌部神社考」など
57-32	阿波十一下	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙（修史館・20×20マス）：「徳川家舊記抜出」・明治七年十二月新刻「地誌提要」など、罫紙（内務省・10行）：「和漢三方図會」など、罫紙（無地・10行）：「新宮之来ル鹿之事」・明治12年4月徳島本業館取調「塩藍紙真砂糖取調書」
57-33	阿波十二上	共/カ三		杉園蔵：2オ右 下	見返し	罫紙（澄水会・12行）：「公方遺書写」など、原稿用紙（杉園蔵・30×24マス）：明治27年十二月識「細川三好君臣阿波軍記」など、罫紙（無地・10行）：「阿波國名目東郡福島四所神社之由来書」
57-34	阿波十二中	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙（澄水会・12行）：「塩方御元建諸法度其後御究究御記録」など
57-35	阿波十二下	共/カ三		杉園蔵：1オ右 下	見返し	罫紙（無地・10行）：「銀札一卷」
57-36	阿波十三上	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下		
57-37	阿波十三中	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：2オ右 下		

史料番号	巻別題目、 その他表紙記載名	和紙小片	表紙表記 (状態、その他)	蔵書・識語印 (印面・押印 場所)	目次・標目 (表記場所)	備考 (料紙、書き入れ・識語など)
57-38	阿波十三下	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下		罫紙 (名東県・8行)：「〈阿波/淡路〉大小區別〈郷社/區長/戸長/用掛〉」(奥に「名東縣庶務課/小杉権大属/公用書」とあり)
57-39	阿波十四上	共/カ三		杉園蔵：1オ右下	見返し	
57-40	阿波十四中	共/カ三		杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙 (蜂須賀・12行)：「阿波國御拜領之記」、罫紙 (無地・12行)：「年中御行事」など、罫紙 (帝國博物館・13行)：「有賀長伯〈以敬齋〉阿波日記」、罫紙 (澄水会・12行)：「座能志之玉」
57-41	阿波十四下	共/カ三	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	標題「〈自明治四年/至全六年〉大藏省租稅察改正局別纂名東縣租稅方法抜萃」
58-1	淡路	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下・2オ右下、 新居庫：1オ左上	見返し	罫紙 (無地・10行)：「郡村記」など
59-1	備中	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		明治4年辛未春製「備中國加陽郡總社圖」付
60-1	讃岐	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	見返し	罫紙 (無地・12行)：「大水主大明神社舊記 写」、罫紙 (大川郡譽水村與田寺・12行)：「醫王山舊記」、罫紙 (内務省・12行)：「崇徳印御彰堂法楽和歌」、内務省古社寺保存会委員国宝監査係宛「開仲書」
61-1	武蔵	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：2オ右下		
62-1	諸国文書	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下	1オ	原稿用紙 (如欄社□用・25×20マス)：「左弁官下 山城國」、罫紙 (帝國博物館・13行)：「侯爵前田利嗣君所蔵文書」など、罫紙 (宮内省・13行)：「徳政文書」、罫紙 (無地・13行)：「秀吉公朱印」など、罫紙 (奈良県添下郡々山今井町外十七ヶ町村戸長役場・13行)：「大和國郡山光慶寺所蔵文書」、罫紙 (無地・10行)：「和久半左衛門書」、罫紙 (臨時全國宝物取調局・13行)：「尾張國人所蔵文書〈數種〉」など、罫紙 (無地・12行)：「園城寺所蔵古文書」など、罫紙 (無地・9行)：「竹生島日記」
63-1	阿波十五上	共/カ三		杉園蔵：1オ左下・2オ右下	1ウ	もと1オが表紙カ、罫紙 (無地・上下半円形・全27行)：「匠家必用記抜書」カ
63-2	阿波十五中	共/カ三		杉園蔵：1オ左下	1オ・ウ	罫紙 (澄水会・12行)：「千歳の礎」など、罫紙 (無地・10行)：「明治22年11月付文書」、罫紙 (無地・10行)：「榮貴録」、罫紙 (蜂須賀・12行)：「江戸詰記録書ぬき」
63-3	阿波十五下	共/カ三		杉園蔵：1オ左下・2オ右下	1ウ	もと1オが表紙カ、元治元年6月写「御隣國御境日之大因〈添書〉」、罫紙 (無地・10行)：「禁火葬」など、罫紙 (蜂須賀・12行)：「明治三年御届三種」カ、罫紙 (徳島藩・8行)：「山陵巡視一條」
64-1	阿波国徴古雜抄目録					原稿用紙 (無地・33×13マス) を使用
65-1	肥後・碓黄島	共/サ四	概要記載あり	杉園蔵：1オ右下		